



ジンチョウゲ

## 目 次

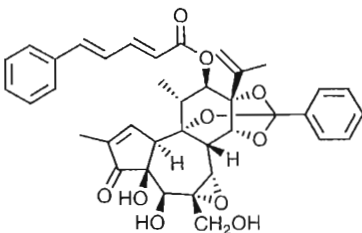
薬用植物の紹介	薬用植物園長	馬場	きみ江	1
新入生の皆さんへ	学長	矢内原	千鶴子	2
大阪医科大学との学術交流協定締結	学長	矢内原	千鶴子	3
退任のご挨拶（御礼）		沼田	敦	4
沼田 敦教授退職記念講演に寄せて	有機分子機能化学研究室助教授	有本	正生	5
創立百周年記念行事および記念事業について	創立百周年記念事業委員長	川島	康生	6
創立百周年記念募金事業にお力添えを	創立百周年記念事業募金委員会			7
大阪薬科大学奨学金制度の創設	学生部長	加藤	義春	8
平成15年度進路・就職状況			就職部	9
第89回薬剤師国家試験の結果と今後の対策	薬剤師国家試験対策委員長	掛見	正郎	13
学生相談室からのメッセージ	学生相談室相談員			15
新カリキュラムと試験制度・進級要件	教務部長	千熊	正彦	16
平成15年度後期授業・実習評価アンケート	教務部長	千熊	正彦	17
平成16年度公開教育講座				19
平成16年度市民講座				19
平成16年度学校法人予算	事務局長	肥塚	敏彰	20
総務課だより				21
就職課だより				25
教務課だより				26
学生課だより				27
経理課だより				28
図書課だより				28
入試・広報課だより				29
教員研究業績（2003年）				31

ジンチョウゲ *Daphne odora* THUNB. (ジンチョウゲ科)

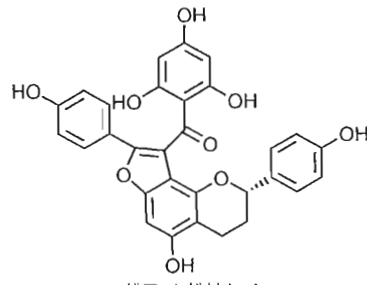
ジンチョウゲ科の植物は、寒帯を除く世界の各地に広く分布し、50属800種余りが知られている。この科の代表的なものが、庭先でよく見かけるジンチョウゲである。中国原産の常緑低木で、高さは1メートルぐらいで、茎は直立して分枝し、葉を密に付け、樹皮には褐色の強い韌皮繊維がある(同科のミツマタ、ガンピなどはこの韌皮繊維を、和紙の原料とする)。葉は厚く互生し、短い葉柄がありつやがあり、冬から枝先の葉心に固まって蕾が付き、早春に開花してよい香りを放つ。がくは筒状で、外面は紫紅色、内面は白色あるいは淡紅色である。日本名の沈丁花は、花のよい香りを沈香(ジンチョウゲ科の *Aquillaria sinensis* の樹脂を含む材で高級薫香料とする)と丁子(フトモモ科の *Syzygium aromaticum* の蕾で clove と呼ぶ)の香りに例えたことに由来する。日本に生えているものは、ほとんどが雄木で実を結ばないが、まれに球形で赤い液果を生ずることもある。中国の代表的本草書である本草綱目には「瑞香(ズイコウ)」の名で収載されている。中国では現在も花を瑞香花と称し咽喉炎、菌痛、リウマチの治療に用いたり、その根皮を瑞香根と称して、胃痛、蛇毒による咬傷の治療に用いている。一方、日本では、かつて花を痘瘡、乳ガン、扁桃炎、歯痛の治療に、根を喉の病気に利用したこともあるが、現在はほとんど使われていない。一般的に、ジンチョウゲ科の植物には毒性が強いものが多く、ジンチョウゲにも発ガンプロモーターとなるメゼレイン、ダフネトキシン、オドラシンなどのダフナン型ジテルペノイドが含まれている。ジンチョウゲの葉が虫に喰われにくいことや、ジンチョウゲを取扱うとかぶれる人がいるのも、おそらくこれらの化合物が関与

しているからだと思われる。ジンチョウゲにはこのほか、ダフネチンおよびその配糖体のダフネチン-7-グルコシド(ダフニン)およびダフネチン-8-グルコシドなどのクマリン類が含まれている。これらのクマリン類の含有量は蕾の開花する時期、すなわち春先の最も芳香の強い時期に急激に増加し、花が咲き終わると途端に減少する。元来クマリン配糖体には芳香がない。しかし、ジンチョウゲの香りの現れる仕組みとクマリン配糖体の出現との間には何らかの関わりがあるように思う。機会があれば、一度調べてみたい。近年、数種のジンチョウゲ科植物において、特徴的な成分である縮合型の二重分子フラボノイド類の存在が明らかにされた。ジンチョウゲからは、フラノビフラボノイドのダフノドリンA、BやスピロビフラボノイドのダフノドリンCなど数種の化合物が単離されている。これらダフノドリン類には、これまでに抗HIV作用、キマーゼ阻害作用、 $H^+$ 、 $K^+$ -ATPase 阻害による抗潰瘍作用が認められており、また、抗植物病原真菌活性、殺植物害虫活性のあることも確認されている。

(教授 馬場きみ江)



メゼレイン



ダフノドリンA

# 新入生の皆さんへ

学長 矢内原 千鶴子

大阪薬科大学が創立100周年を迎える本年、新入生として皆さん方を迎えることができ誠に嬉しく存じます。

既にご承知のように、本学は1904年5月9日、大阪道修町に創設された大阪道修薬学校に始まり、道修町はわが国の薬業の発祥の地であると同時に大阪における薬学教育の始まりの地であり、その歴史は1875年この地に開講された理化学教育にさかのぼります。当時は輸入薬種、医薬品の真偽の鑑別、品質検査などに携わる人材の養成が目的であり、従って製薬法、薬種試験法などが教えられていたということです。その後“薬剤師”の名称が定着した後も薬学教育の中心は依然、有機化学、植物化学、分析化学などの理化学系科目におかれ、薬理学、生化学などの生物系分野の教育が本格的に取り入れられるようになったのも、戦後のことでありました。このように基礎的学問領域に重点を置く薬学教育は、その後およそ半世紀に及んで継承されました。しかしながら、これに改革の必要性を迫ったのは、薬剤師の役割が調剤も含めた医薬品管理業務中心から患者が中心の医療現場での業務へと拡大したからでありました。さらに、薬学出身者が活動する分野は極めて多様であるとはいえ、いずれも最終的には人の生命に繋がる職能であるということから、薬学教育においても薬を通して人々にかかわる意義を十分に理解できるようにする必要があると考えられ、その結果、特に1990年代に入り、医療薬学、臨床薬学分野の教育が重視されるようになりました。薬剤師の養成という意味ではようやく充実に向かい始めたと言えるでしょう。医療薬学、臨床薬学分野の教育は薬学教育の中でも最も歴史が浅い分野であり、今なお学問としても十分に体系化が確立されているとは言いがたいところもありますが、今では実務実習も含め薬学教育にとって欠くことの出来ない教育分野となっています。

先にも触れましたように、また既にガイダンス等で説明を受けておられることではありますが、薬学出身者の進路は病院・薬局薬剤師のみならず、製薬企業における医薬情報、研究開発、臨床試験（治験）、製薬、流通などの担当者、創薬、創剤研究者、技術者、薬事行政、薬事監視等に携わる公務員など極めて多様であります。こうした中で、いずれの進路を選ぶ場合でも、臨床にかかわる知識と経験を身につ

けておくことは必須であり、特に薬剤師以外の職能に就く場合にこそ、薬学出身者としての特性を身につけておくことが重要であると言えます。

しかし、こうした医療薬学、臨床薬学は、実践的な技術も含め薬学の応用分野であります。基礎なくして応用は成り立たないことは、厳しい受験競争を経てこられた皆さん方には十分理解できると思います。相撲にしろ、野球、スキー、サッカー、いずれのスポーツをとっても、共通して足腰の強さが求められます。これが基礎体力の根幹であります。スポーツと学修を同じレベルで論じるのはいささか乱暴かも知れませんが、応用科目の学修がしっかりとした基礎の上に成り立つことには違いはないでしょう。医療薬学、臨床薬学は重要であります。それらを支えるのは基礎薬学です。薬剤師は医師の亜流であってはなりません。それが例えばチーム医療の一員としても、いえ、一員だからこそ薬学を学んだ者として果たさなければならない独自の役割があります。そのためには、基礎・応用を含めた基礎薬学（薬科学）の学修を欠くことはできません。その上に立っての医療薬学、臨床薬学でなければ、単なる知識の断片となり、そうした薬剤師は時の経過に伴い新しい科学に基盤を置く医療の中で十分な役割を果たすことはできなくなるでしょう。最近では、文部科学省も自ら考え自ら解決する問題解決型の能力の強化を奨励していますが、基礎の力を蓄えていないものには問題は何かをすら考えることができないでしょう。日々の社会生活の中で解決しなければならない問題は全て応用問題であります。大学での学修が、単なる職業的知識や技能のみに陥ることなく、少なくとも大阪薬科大学の学生はまず教養豊かなあたたかい人間性の上にとしっかりとした薬学の基礎を身につけることを目指し、教養科目も含め特に1年次、2年次の学修を疎かにしないよう心懸けてくださることを願っています。

平成15年度卒業生の皆さん方の薬剤師国家試験合格率は飛躍的な上昇をみました。大学全ての人々の努力が好結果を生んだことに間違いはありませんが、日々の精進があれば全員合格することは、大阪薬科大学に学ぶ皆さんの実力からして当然であると信じています。本学の素晴らしい伝統が皆さん方の新しい力で一段と輝きを増すことを期待しています。

# 大阪医科大学との学術交流協定締結

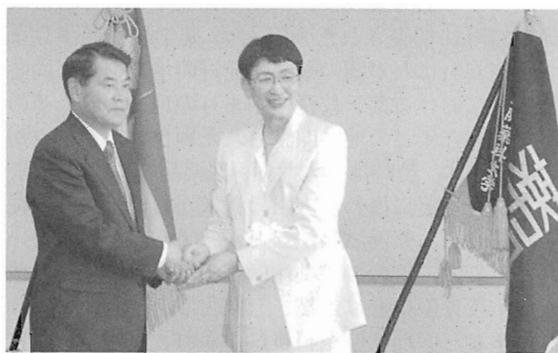
学長 矢内原 千鶴子

この度、大阪薬科大学は、大阪医科大学と学術交流協定を結ぶこととなり、去る4月12日、大阪医科大学において調印式が執り行われました。両大学が教育および学術研究の領域において互いに連携し協力することにより、医学と薬学のジャンルを超えた教育・研究成果をあげることが期待できるとの考えから結ばれたもので、特に教員の交流については約2年前より計画が進められてきました。また、高槻市内にある両大学が、互いの利害に限定しない、地域に根ざした学々間の交流を図ることにより、市民の方々が健康で文化的な生活が送れるよう、地域に密着した医療分野での貢献を図ることが可能となり、さらには高槻市学園まちづくり協議会の懸案である「大学コンソーシアム高槻」設置への布石ともしたいと考えられています。

今回、両大学が協力することに同意した事項（協定書第一条）は、

- (1) 共同研究の推進
- (2) 教員の相互交流
- (3) 大学院生・学部学生の相互交流
- (4) カリキュラムの相互提供
- (5) 学術情報及び資料の交換

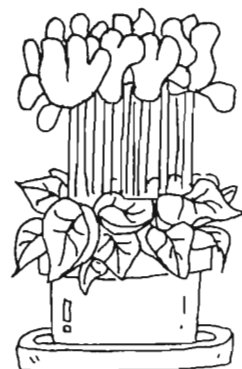
であります。各事項の具体的な交流計画については、双方で協議の上、覚書によって定めることになっていきます。共同研究については従来からも教室・研究室単位で活発に行われてきましたが、正式な協定に基づくものとして、今回は、まず「(2) 教員の相互交流」についての覚書に調印し、今後、早急に実行に移されることになりました。本学においては、こうした交流による総合薬学系臨床薬学教育研究群の充実に大きな期待が寄せられています。



大阪医科大学の島田学長と本学矢内原学長

## 滋賀医科大学大学院医学系研究科と 特別研究学生交流協定

大阪薬科大学大学院薬学研究科は、滋賀医科大学大学院医学系研究科との間で特別研究学生交流協定を結ぶことになり、4月16日、その協定書に調印しました。この協定に基づき両研究科間の交流と協力を推進し、教育研究の充実を図るため、大学院学生が相互に必要な研究指導を受けることができるよういくつかの申し合わせを行いました。本協定は本学大学院の教育研究の充実・発展に寄与するところが大きいものと期待されます。





## 退任のご挨拶（御礼）

沼田 敦

昭和43年に本学に勤務させて頂いて以来三十余年の月日が経過し、去る3月31日に退職致しました。この間、微力ながら、自分なりに頑張っただけでしたが、結果的にあまり貢献できなかったことは残念であり、誠に申し訳なく思っております。しかし、何とか今日に至り得たことは、ひとえに教員・事務職員の皆さんのご指導ご支援の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。昔から大学勤務を希望される方は多く、しかし実際に勤務できる人はごくわずかです。就任当時は本学が大学院の設置に向けて教員の増員を図る時期で、それゆえに採用という幸運に恵まれました。採用に関与された当時の先生方に心から感謝致しております。制約のある環境から、自由に研究ができる環境に変わった時の喜びは忘れることはできません。それが、薬大で過ごす時間が私の生活の大半となった所以であります。

私は、昭和63年就職部長を勤めた頃から若干血圧が高かったものの、風邪もあまり引かず、比較的健康な方だと自負してきましたが、平成14年7月に初期の肺がんの手術を受け、その際、声帯に支障が生じ、以後発声難で苦しめられました。現在、かなり良い方向に向いてきておりますが、以前の美声(?)を取り戻すことは難しく、楽しみの一つのカラオケはもう出来なくなりました。生死に関係のない発声難とはいえ、私の人生で最も辛い2年間であり、その間、皆さんに大変ご迷惑をおかけしたことを心からお詫び申し上げます。このような試練が現在の私の脳裏に鮮明に焼き付けられておりますので、病気以前のことは遠い昔のことにぼんやりしていますが、かなり楽しかった事柄が思い出されます。

本学に就任した頃はどこも大学紛争が盛んであり、本学も内容は他大学とは異なったもののやはり紛争が起こり、背景が分からず戸惑い悩みました。これが私にとって決して忘れ得ない本学での第一ページとなりました。恐る恐る始めた教育研究も毎年フレッシュな学生を迎えながら明るさを取り戻して

いき、楽しい学園生活となっていきました。何よりも楽しかったことは学生との触れ合いでした。大学院生、特別実習生（特研生）、顧問であった卓球部の部員等と共にした旅行、コンパなどでの出来事が、心配事もあったものの、楽しい思い出として数多く印象に残っています。また、講義を担当した学生のなかには質問、相談などをきっかけとして親しく冗談を言い合ったりした方々も多く、そんな楽しかった日々も思い出されます。

楽しかったことでは、若い頃によく参加させて頂いた親和会の旅行があります。通常の職務から解放されて、先輩の先生や事務職の方々とも親しくお話ができる良い機会でしたし、多少羽目を外すことも楽しみの一つでありました。

一方、大学の管理運営に関する部長等の職務につきましては、結構な年数にわたり携わることになりましたが、これは兼務ということもあって私にとっては大変な仕事でありました。しかし、委員の先生や事務の方々にも助けられて何とか職務を全うすることができました。ご協力頂いた方々に心から御礼申し上げます。

研究のために、蝶や海洋生物の採集にしばしば出かけましたが、苦勞もあり、面白さもありました。がん細胞増殖抑制効果の検定に用いるがん細胞は年中培養できるのに対し、蝶幼虫の飼育は4月から9月一杯までが限度であり、蝶の世話はどんなに大変だったかが細胞を培養してみても痛感しました。研究にご支援頂いた先生方をはじめ、ご苦勞をおかけした有機薬化学教室の歴代の助手、院生、特研生等に重ねて御礼申し上げます。

楽しかったこと、嫌だったこと、辛かったこと、いろいろありましたが、今思えば楽しく素晴らしい学園生活でした。この学園生活の主役は学生であり、素晴らしくして頂いた学生の皆さんに対し、感謝の念で一杯であります。

最後に、皆さんの今後のご健闘と益々のご健勝を祈念致します。

## 沼田 敦教授退職記念講演に寄せて

有機分子機能化学研究室助教授 有本 正生

大阪薬科大学教授沼田 敦先生は、平成16年3月31日をもって定年退職されることになりました。それに伴い、3月19日（金）午後1時30分より講義室2Aにおいて退職記念講演が、「自然からの贈り物」の演題で行われました。

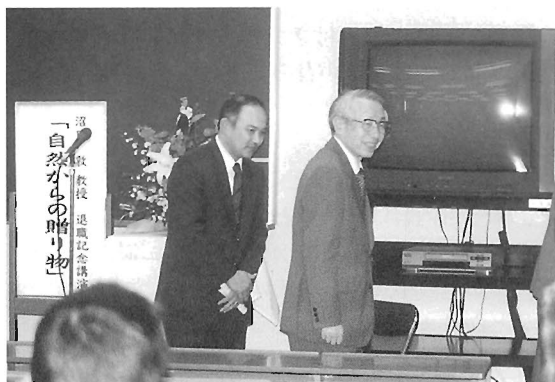
先生は昭和43年本学に助教として着任され、昭和56年教授への昇任を経て、本年3月に退職されるまで、36年間という長きにわたり、法人では理事、評議員として、また学内では教務部長、就職部長、その他多くの要職を勤められ、大学の発展に寄与されると共に、研究と教育に精励されてこられました。学生部長だけは経験されていないと聞き不思議に思っております。先生が着任された時には、私はまだ学生だったのですが、残念ながら、先生の講義を受けることが出来ませんでした。

退職記念講演において、先生のライフワークであった「生理活性物質の探求」を目的とした、昆虫の生理活性物質の構造研究、天然物特に海洋生物の細菌が産生する抗腫瘍活性化合物の探索、未知の多くの化合物の構造解析などの研究にまつわるエピソードを留学先のアメリカアリゾナ州立大学 G. P. Pettit 教授との交流をまじえながら、多岐にわたってたいへん興味深いお話を伺うことが出来ました。私は、松原学舎、また移転した高槻学舎においても隣接する研究室で長年過ごさせていただき、研究、教育に携わってこられた姿勢を拝見するにつれ、その情熱に敬服するほかはありません。私も見習って頑張っていこうと感じた次第です。昔、空調の設備が整わない松原学舎のとき、先生がお留守の際に、学生の不注意で火事になりかけたことがあり、助手の先生がどうしていいかわからず、私の研究室に飛び込んでこられ、消火器をもち消火しにいったことが思い出されます。幸いボヤ程度で済みましたが、汗の結晶をほとんどだめにしてしまったこと、誠に申し訳なく思っております。改めて有機化学の危険な面を認識した次第です。教育面では、有機化学、有機化学実習、医薬品化学を担当され、ユニークな講義で、

よく脱線されると学生から聞いております。実習ではビデオを作製し、講義に使用しているのですが、手元からズームアップしていきますと、若かりし日の先生が現れてきますので、学生から歓声があがります。これはなかなか楽しいものです。時間の許す限り実習室においてになり、学生と色々とお話になっておられました。本当に学生を愛しておられたのだと感じました。また、共同研究機器に関しては、我々有機化学および天然物に携わるものにとっては、無くてはならない核磁気共鳴スペクトル (NMR) の導入、維持管理にかかわってこられ、私たちにとって非常に助かりました。本当に有難うございました。

当日は、年度末のあわただしい時期にもかかわらず、学内の諸先生方をはじめ、職員、学生諸君にお集まりいただきました。また、平日にもかかわらず、教室出身者をはじめとして、学外からも多数ご出席くださいました。これも沼田先生のお人柄ゆえかと思います。本当に有難うございました。

本学も薬学教育六年制に向かって、何かと厳しい状況下であり、先生のお力添えをいただきたい時に残念でありませんが、ご退職後も、学外から見た視点でご助言、ご指導をお願いいたします。最後になりましたが、沼田先生におかれましては、今後ともご健康に留意され、お健やかに過ごされるよう心よりお祈り申し上げます。



# 創立百周年記念行事および記念事業について

創立百周年記念事業委員長 川島 康生

ご存知の如く、本年（平成16年・2004年）は、明治37年（1904年）に本学の前身である大阪道修薬学校が日本薬業の中心地、大阪道修町の現在の塩野義製薬（株）本社ビルの奥の部分に設立された時から数えて百年目を迎えますので、色々の記念行事および記念事業を企画しています。その中から、記念講演、式典、祝賀会の開催、記念市民講座の開催、創立発祥の地の記念碑の建立、学歌碑の建立、学歌CDの制作についてお知らせします。

## 1. 記念講演、式典、祝賀会の開催

日時：平成16年10月9日（土）

記念講演：午後2時30分

記念式典：午後4時

記念祝賀会：午後5時30分

会場：リーガロイヤルホテル

「ロイヤルホール」および「光琳の間」

（大阪市北区中之島5-3-68）

記念講演

演題「道修町・大阪 薬のまち

—大阪薬科大学発祥の地—

演者 大阪大学名誉教授 協田 修氏  
大阪歴史博物館館長

### <プロフィール>

協田 修氏



1931年大阪府生まれ。1953年京都大学文学部卒業。大阪大学文学部助教授、教授、文学部長を歴任し、1994年名誉教授、1998年帝塚山学院長、2001年大阪歴史博物館長。適塾記念会評議員、著書は「近世大阪の町と人」、「近世大阪の経済と文化」、「秀吉の経済感覚」など多数。NHKドラマ「峠の群像」や「近町青春日記」監修をはじめ教育テレビなどに出演。趣味はクラシック音楽、古典芸能を広く愛好するが、とくに文楽、狂言が好きで狂言を茂山千之丞師に習う。

## 2. 記念市民講座の開催

日時：平成16年9月26日（日）午後2時30分

会場：IMPホール（大阪ビジネスパーク）

（大阪市中央区城見2-1-61）

演題：「生きがい」は人生の妙薬

演者：ノンフィクション作家 柳田邦男氏

### <プロフィール>

柳田 邦男氏



1936年栃木県生まれ。1960年東京大学経済学部卒業。NHK記者を14年勤めた後、執筆活動に入る。現代人の生と死をテーマに、病氣、医学、災害、事故、戦争などのドキュメンタリーな作品を書いている。1972年には「マッハの恐怖」で第3回大宅壮一ノンフィクション賞、1995年には「犠牲 わが息子・脳死の11日」とノンフィクション・ジャンルの確立で第43回菊池寛賞を受賞。ほかに「『死の医学』への日記」「言葉の力、生きる力」「心の深みへ—うつ社会脱出のために」など。

最近では、終末期医療、脳死問題、臓器移植、医療事故などについて積極的に発言するとともに、心の危機、言葉の重要性、絵本の重要性についての執筆や講演に精力を注いでいる。

## 3. 創立発祥の地の記念碑の建立

道修町の塩野義製薬（株）本社ビル正面向かって左側の植栽の一角に、中国遼寧省産の六方石に、「大阪薬科大学発祥の地」の銘板を付した記念碑を設置させていただき、平成16年5月9日（日）の創立記念日に除幕式を行いました。

### 大阪薬科大学発祥の地

大阪薬科大学の前身である大阪道修薬学校が明治37年（1904年）この地に初代校長となる平山松治氏を中心として薬種商塩野吉兵衛氏らの尽力によって設立された

平成16年（2004年）5月  
創立100周年を記念して建立  
大阪薬科大学記念事業委員会

#### 4. 学歌碑の建立

本学には少なくとも3つの学歌があります。現在の高槻キャンパスの学歌と、移転前の松原学舎の学歌と、その前身の帝国女子薬学専門学校時代の学歌です。この3つの学歌の歌詞とそれぞれの学舎を陶板にデザインした碑を現在の高槻キャンパスの講義・実習棟前の芝生広場に8月末までに設置することになっています。なお、この学歌碑の建立については、大塚製薬（株）

様と大鵬薬品工業（株）様から制作費をご寄付いただきましたことを申し添え、誌面を借りて御礼申し上げます。

#### 5. 学歌CDの制作

前述しました3つの学歌のCDの制作を7月末までに行います。学歌の演奏はシュッツ合唱団にお願いしています。

## 創立百周年記念募金事業にお力添えを

### 創立百周年記念事業募金委員会

募金目標額1億5千万円を掲げて、平成15年4月から始まり、創立百周年募金事業の平成16年4月30日までの入金状況は、11,787万円で、その達成率は約79%です。これまでに募金事業にご協力賜りました皆様には感謝申し上げますとともに、本学にゆかりのある皆様には引き続いて、創立百周年募金事業にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

募金目標額 1億5千万円

1. 教育奨学基金の創設 1億円
2. 国際交流基金の創設 4千万円
3. 資料室の整備・充実 1千万円

募金期間 平成15年4月1日～平成17年3月31日

(平成16年4月30日入金分まで)

募金区分		目標額(万円)	入金額(万円)	達成率(%)
(法人)		5,000	6,978	140
(個人)		10,000	5,363	54
個人の内訳	同窓会	7,000	2,971.5	42
	育友会	1,500	1,195.5	80
	理事・監事・評議員 教職員・旧職員	1,500	1,196	80
合計		15,000	(※ 12,341) 11,787	79

(※本学卒業生の理事・評議員、教職員他の寄付金は、同窓会の区分でも計上されていますので、実際の寄付金の合計は11,787万円です。)



# 大阪薬科大学奨学金制度の創設

学生部長 加藤 義春

学生生活を経済的に支援する奨学金制度として、本学にはこれまで、日本育英会（現「日本学生支援機構」）奨学金、各種の地方公共団体や民間の奨学金、および大阪薬科大学育友会（父母会）奨学金があり、近年では約十分の一強の学生がいずれかの奨学金を受給していた。

本年、本学の創立百周年にあたり、その記念事業の主要な柱として、本学独自の奨学金制度の創設が掲げられることとなり、土井勝教授を委員長とする奨学金制度創設委員会は、法人が設ける顕彰型および支援型の奨学金制度、さらに育友会に設けていただく救済型の学費融資制度の三つからなる体系を考案し、その案の骨子は昨年2月の拡大教授会で審議され承認されていた。

その後、奨学生選考を主として担う学生部が創設委員会と協働し、教務部・大学院小委員会とも連携しながら、案の内容を再検討・修正して、「大阪薬科大学奨学金規程」「同運用細則」と「大阪薬科大学育友会学費融資規程」「同細則」を作成するに至った。前者の「奨学金規程」と「運用細則」については、拡大教授会の審議と承認を経て本年3月23日の理事会で承認され、後者の「学費融資規程」と「細則」についても、育友会役員会で審議していただき4月5日の育友会総会で承認されて、平成16年度から、法人が設ける奨学金制度と育友会に設けていただく学費融資制度が発足するに至った。

ここに、従来からある奨学金制度に、法人の奨学金制度と育友会の学費融資制度が加わることとなり、本学においても時代に即応した奨学金制度・学費融資制度の体系が整備され、充実したシステムができあがったといえよう。以下、新たに発足する奨学金制度と学費融資制度の概要のみを記すこととする。

## I. 大阪薬科大学奨学金制度

### 特待奨学金制度

- ・特待奨学金は、学業・研究・その他の分野で優れた学部学生・大学院学生または団体に給付し、表彰する。
- ・学部学生（1年次生を除く）は、原則として前年度の学業成績の最優秀者・次席者・三席者にそれぞれ50万円・30万円・20万円を給付する。大学院学生の場合、学部の成績・大学院入試成績および大学院での研究成果等を勘案して、若干名に20万円ずつを給付する。（来年度より実施。）
- ・毎年の選考において、繰り返し特待奨学生となることができる。

### 一般奨学金制度

- ・一般奨学金は、経済的事情で学業もしくは研究の継続に支障を来している学部学生または大学院学生に給付する。
- ・学部学生について、員数は年次ごとに若干名とし、給付額は月額5万円（ただし、うち4万円は貸与）とする。大学院学生の場合、員数は若干名とし、給付額は月額6万円（ただし、うち5万円は貸与）とする。
- ・一般奨学生の資格は1年間とし、毎年継続して資格を得ることができる。

## II. 大阪薬科大学育友会学費融資制度

- ・在学中に家計急変等の事情により学費納入が困難となった学生を救済するために、融資を行う。
- ・在籍1年を超える学生を対象に、一定の条件にあてはまれば学生が納入すべき学費を限度に融資を行い、在籍期間中の融資限度額は、原則として2年分の学費相当額とする。なお、融資は無利息とする。

（新たな奨学金制度と学費融資制度で定められているその他の事項については、それぞれの「規程」と「細則」を参照していただきたい。）

# 平成15年度進路・就職状況

## 就 職 部

主要企業を中心に業績回復傾向にあります。全体の景気は依然として長期低迷中です。このような状況下にあっても、今春卒業した学部学生（51期生）255名（男71名・女184名）の進路・就職状況は（表1・表3）に示すとおり、薬剤師国家試験合格後に進路決定を希望する者を除き、ほぼ100%の進路・就職決定率となっています。特徴としては、昨年度に比べ病院および病院研修生が減少し、薬業関連企業への就職が増加した点です。今後この傾向はさらに続くと予想しています。51期生に対しては、前号（48号）でも紹介したように、薬業関連企業の厳選採用や採用時期の早期化、インターネット応募の拡大、学生の就職観の多様化等に対し、就職部委員会・就職課において迅速かつ的確に対応してきました。特に、インターンシップ参加者の拡大や頻回に実施した就職ガイダンスの効果が数字に反映されてきたのではないかと考えています。職種別には次のような特徴がみられます。

### 1) 薬局

調剤およびOTCを対象とした薬局への就職率は年々増加し、本年度は27.5%でした。昨年度は28.9%でわずかですが減少しています。医薬分業の進展で保険薬局、調剤併設型ドラッグストアの増設は関西地区を中心に現在も拡大傾向にあります。求人数は昨年度の532件をピークに本年度は459件に減少してきています。薬剤師増加とともに、今後求人数は徐々に減少してくると予想しています。

### 2) 病院・診療所および病院研修生

病院・診療所における就職率は、本年度11.0%（昨年度15.1%）と減少しています。病院の求人は基本的には欠員募集で、院外処方拡大や、6年前に厚生省（現：厚生労働省）より打ち出された病院における薬剤師の配置基準などの影響等もあり、従来、本学学生が多く就職していた大病院ではさらに狭き領域となっています。一方、199床以下の中・小病

院からの求人数は増加していますが、全体の求人数は減少中です。

病院研修生についても、本年度5.5%（昨年度7.0%）と減少しており、研修後の基幹病院への就職が厳しくなっています。

### 3) 薬業関連企業

当分野への就職は、企業の選択と集中による機構改革もあり厳選採用であり、年ごとに減少していましたが、今春の卒業生は18.0%（昨年度13.8%）と大幅に増加しました。年々、高度な情報提供が要求される医薬情報担当者（MR）は増加していますが、内勤領域（研究・開発、学術、品質管理、管理薬剤師）の求人は少なく、ますます厳しくなっています。

### 4) 公務員・教職員

当領域への就職率は昨年とほぼ同様の2.0%（昨年度2.1%）でしたが、大阪府・京都府・大阪市・高槻市と就職先も拡大傾向が出てきました。今年度は、4月19日全学生を対象に公務員対策講座を開催するなど、さらに情報の変化に応じた対策を立て、学生のニーズに応える予定です。

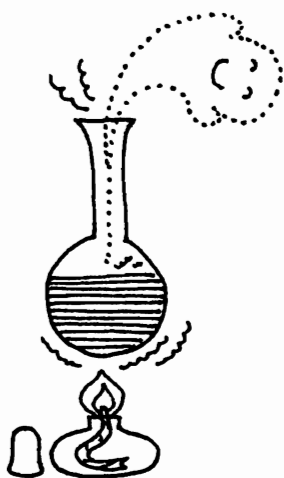
### 5) 大学院進学

大学院進学率は28.6%（昨年度27.5%）となり、進路・就職率のトップです。これには、文部科学省の大学院拡大施策や薬系大学の修業年限延長（薬学教育6年制）が現実のものとなってきたことが影響していると思われます。

### 6) その他・未定

未定の12名は、薬剤師免許取得後にそれを必要とする職種（例えば病院・薬局）への就職を決めようとする者であり、薬剤師国家試験が難しくなっている状況からこのような考え方の学生が多くなっています。このような場合でも、薬剤師免許を取得すれば、その後には全員就職が決定しています。

一方、大学院修了生の就職指導・支援は各指導教員が主体となり、就職部委員会・就職課と情報を共有しながら行われています。平成16年3月修了の大学院学生34名（男26名・女8名）の場合は、100%の就職率となっていますが、職種内容の多様化で「数」より「質」を優先する厳選採用の流れは、さらに強まっています（表2・表4）。特に大学院修了生の場合には、薬業関連企業への就職率は70.6%と昨年度の54.7%から大幅に増加しました。中でも、研究、学術、開発等の内勤職への就職率が昨年度の47.6%から本年度は61.8%と増えたのが、大きな特徴です。今後もこの傾向は続くと予想しています。



平成15年度 学部卒業生(51期生)進路・就職状況  
(表1) (平成16年3月31日現在)

区分	男	%	女	%	計	%	
薬局	16	22.5%	54	29.3%	70	27.5%	
病院・診療所	2	2.8%	26	14.1%	28	11.0%	
病院研修生			14	7.6%	14	5.5%	
薬業関連企業	(MR)	12	16.9%	24	13.0%	36	14.1%
	(内勤)	2	2.8%	8	4.3%	10	3.9%
公務員・教職員	1	1.4%	4	2.2%	5	2.0%	
大学院進学	28	39.4%	45	24.5%	73	28.6%	
その他	6	8.5%	1	0.5%	7	2.7%	
未定	4	5.6%	8	4.3%	12	4.7%	
計	71	100.0%	184	100.0%	255	100.0%	

平成15年度 大学院博士前期課程修了生(28期生)進路・就職状況  
(表2) (平成16年3月31日現在)

区分	男	%	女	%	計	%
薬局	2	7.7%	1	12.5%	3	8.8%
病院・診療所	3	11.5%	2	25.0%	5	14.7%
薬業関連企業	(MR)	3	11.5%		3	8.8%
	(内勤)	16	61.5%	5	62.5%	21
公務員・教職員	1	3.8%			1	2.9%
その他	1	3.8%			1	2.9%
計	26	100.0%	8	100.0%	34	100.0%

(表3)

平成15年度学部卒業生 (51期生)  
進路・就職先

## 公務員

大阪府	2	大阪市	1
京都府	1	高槻市	1
		計	5名

## 薬業関連企業・その他

イーピーエス	1	鳥居薬品	1
エーザイ	2	日本イーライリリー	1
大塚製薬	1	日本シェーリング	1
大塚製薬工場	2	日本新薬	1
カイゲン	1	日本ペーリンガーインゲルハイム	1
科研製薬	1	日本メジフィジックス	1
杏林製薬	3	日本ワイスレダリー	1
健栄製薬	1	ハイテック・エイチシーアール	1
原子燃料工業	1	万有製薬	3
興和	1	ファイザー	1
塩野義製薬	3	藤沢薬品工業	3
住友製薬	1	プロクター・アンド・ギャンブル	1
大日本製薬	1	分析科学研究所	1
武田薬品工業	6	三菱ウェルファーマ	1
ツムラ	1	山之内製薬	2
		計	46名

## 病院

育和会記念病院	1	近森病院 (高知市)	1
石切生喜病院	1	天理よろづ相談所病院(奈良県)	1
伊勢慶友病院 (三重県)	1	鳥瀨病院	1
井上病院 (和歌山市)	1	春江病院 (福井県)	1
うえだ下田部病院	1	阪南病院	1
宇治徳洲会病院 (京都府)	2	平井病院 (橿原市)	1
大阪暁明館病院	1	松山市民病院 (愛媛県)	1
岡山協立病院 (岡山市)	1	八代医師会立病院(熊本県)	1
草津総合病院 (滋賀県)	1	山崎病院 (広島市)	1
倉敷成人病センター(岡山県)	1	大阪警察病院 (非常勤)	1
向陽病院 (和歌山市)	1	関西医科大学附属香里病院(非常勤)	1
城山病院	1	和歌山労災病院(非常勤)	1
住友病院	1	四日市市立病院(アルバイト)	1
高砂西部病院 (兵庫県)	1		
		計	28名

## 薬局・小売

アイム	1	ダイヤライフ	1
アインファーマシーズ	3	たんぼぼ薬局	1
あおば薬局	1	チトセファーマシー	1
アルカ	3	津山調剤薬局	1
イオン	1	DMD	1
育星会	2	ナガタ薬品	1
医薬情報システム開発	1	日本調剤	9
大阪ファルマ・プラン	3	ハーティウォンツ	1
オーパス	6	阪神調剤薬局	4
協立薬品	1	ヒグチ産業	1
クオール	1	ファーマライズ	1
クリエイトエス・ディー	2	富士バイオメディックス	1
コクミン	1	メディカルー光	1
ジップ・ホールディングス	2	ユタカファーマシー	3
スギ薬局	4	ラ・プラージュ	1
セガミメディクス	5	リゲルコーポレーション	1
総合メディカル	4		
		計	70名

## 大学院 (博士前期課程) 進学・その他

大阪薬科大学	51	京都薬科大学	1
愛媛大学	1	神戸大学	2
大阪市立大学	2	奈良先端科学技術大学院大学	3
大阪大学	3	北陸先端科学技術大学院大学	1
岡山大学	4	島根大学(医学部3年編入)	1
金沢大学	2	信州大学医学部	1
九州大学	2	専門学校	2
京都大学	1		
		計	77名

## 病院研修生

大阪大学医学部附属病院	10	神戸大学医学部附属病院	1
京都大学医学部附属病院	2	名古屋大学医学部附属病院	1
		計	14名

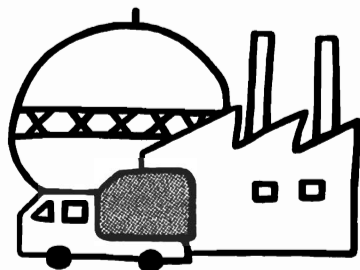
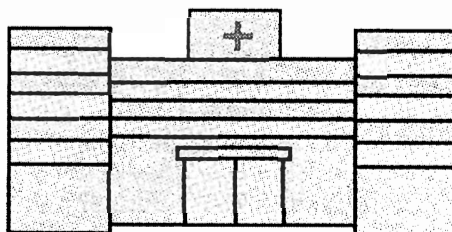
## その他・未定

その他	3	未定	12
		計	15名

(表 4)

平成15年度大学院博士前期課程修了生  
(28期生) 進路・就職先

公務員		病院		
高松市	1	天理よろづ相談所病院	1	
		豊郷病院(滋賀県)	1	
		藤井病院	1	
		八尾徳洲会総合病院	1	
		大阪警察病院(非常勤)	1	
	計 1名		計 5名	
薬業関連企業・その他		薬局・小売		
アラガン	1	スギ薬局	1	
エバルス	1	中央第一薬局	1	
小野薬品工業	1		ぼうしや薬局	1
カーヤ	1			
キッセイ薬品工業	1			
京都薬品工業	1			
劑盛堂薬品	1			
三栄源エフ・エフ・アイ	1			
C A Fラボラトリー	1			
塩野義製薬	1			
新日本科学	2			
大日本製薬	1			
大鵬薬品工業	1			
ダイヤ製薬	1			
富山化学工業	2			
日本製薬	1			
日本たばこ産業	1			
日本メジフィジックス	1			
ハイテック	1			
藤本製薬	2			
ロート製薬	1			
	計 24名	その他		
		医学アカデミー薬学ゼミナール	1	
			計 1名	



# 第89回薬剤師国家試験の結果と今後の対策

薬剤師国家試験対策委員長 掛見 正郎

第89回薬剤師国家試験の合格者発表が4月21日、厚生労働省で行われた。本年度の成績は、新卒合格率94.51%（全国4位、私学3位）、既卒者を含めた全体合格率84.89%（全国8位、私学7位）と、比較的好成績であった（図1、表1）。これはこの1年間、全学あげて薬剤師国家試験の「成績向上」に向けて取り組んだ結果であり、国家試験対策委員会をはじめ関係教職員のご協力と、そして何よりも学生諸君の努力に対し、心から敬意を表するものである。思えばこの10年間、本学では強力な対策を行っていたにもかかわらず国家試験成績の長期低落傾向が続き、教職員のみならず学生の間でも国家試験に対する不安と自信喪失が少なからずあったことは事実である。このことを思えば今回の結果を素直に喜ばばよいのかもしれない。しかしながら、このような時こそ今回の結果を徹底的に分析評価し、それを次の対策に繋げることが重要であり、これがこの10年間の低迷の苦い教訓であることを忘れてはならない。

さて、昨年度末の3月27日・28日に行われた、第89回国家試験は第1日目の「基礎薬学」と「薬事関連法・制度」では難易度の高い問題が多く、例年より正答率が5～8%も低い結果となった。一方、「衛生薬学」は素直な出題が多く、例年より5%以上正答率が高いという結果となり、第2日目の「医療薬学」も比較的平易であったため、結果的には全科目の正答率は、ほぼ例年通りの69.50%となった（表2）。このうち本学学生の成績は、総合を含め全ての科目で全国平均を上回ることとなった。これはこの10年間で初めてのことであり、今回の国家試験対策で第一の目標、すなわち「本学の成績を少なくとも全国レベルまで引き上げること」がなんとか達成できたことを示している。また例年極めて成績が悪かった「基礎薬学」も、回復傾向に転じたことは特筆すべき点である。これは、今回の最重点対策として「有機化学と薬理学の強化」を掲げ、極めて短時間に効率よく対策を実施したことと無関係ではない。事実、卒業生から返送されてきた「自己採点」の分析結果からも、これが裏付けられている。今回もう一つ特筆すべき点は、これも例年極めて成績が悪かった既卒者の合格率が上昇したことである。これは本学としては初めての試みであるが、昨年11月、既卒の全受験生（約120名）を来学させて国家試験対策委員会と面談を行い、受験準備状況を報告させたことと関連している。これによって既卒受験生の「国家試験受験に対する認識」を新たにさせ、一部の受験生ではあるがこれまで大した準備もせず安易に国家試験受験を繰り返してきた愚を、少しは防止できたものと考えている。

以上、第89回薬剤師国家試験の結果について一部

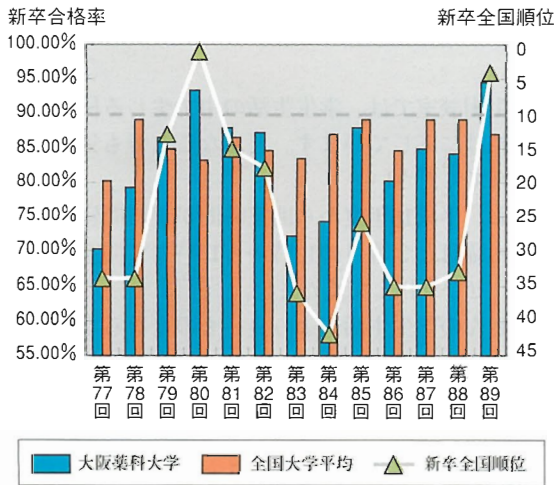
現状分析を交えながら述べてきたが、これら結果を踏まえて今後の方針について述べなければならない。本学は言うまでもなく薬学教育機関であり、その使命の一つとして「薬剤師養成」を掲げている以上、少なくとも薬剤師国家試験合格者を90%以上に保つことは、私たち薬学教員の最低限の義務と考えている。この点からすると、この10年間にたった2回しかこの義務を果たしてこなかったという事実（図1）を真摯に受け止めなければならない。このため本年度は、新卒合格率90%以上と、全科目の正答率が全国平均値を上回ることを最低限の目標にして国家試験対策を考えることとした。基本的には昨年度の基本方針をほぼ踏襲することになる。具体的には以下の通りである。

## 〔基本方針〕

1. 本学学生の国家試験の成績を全国レベルに保つこと。
2. 国家試験対策／薬学総合演習は、本学教員があくまでも主体となって行い、予備校等の外部講師とも協力して、効率的に授業を進めること。
3. 授業には、目標、方略の具体的提示と、学生の学習到達度の評価を徹底して行い、その学習到達度別クラス編成を行って、学生の能力に合った授業を進めること。
4. 国家試験対策／薬学総合演習は、短期間に集中して効率よく行うため、主として後期のみを実施すること。
5. 5回の総合試験と、全国統一模擬試験を、国家試験の様式（各2日間）に準じて実施し、その結果を公表して学生の弱点克服に活用すること。
6. 薬学総合演習の単位認定は、2月に連続で2回実施する正規試験で評価するが、その基準は「第90回薬剤師国家試験に合格するレベルに到達している」かどうかで判断すること。
7. 既卒者に対して、昨年以上に積極的な対策をとり、受験する以上は全員合格を目指し、合格の見込みのない受験生の安易な受験は極力防止すること。
8. 卒業留年学生には、昨年以上にきめ細かな特別措置を行い、これら学生の国家試験全員合格を目指すこと。

本年度もいくら「最適な」国家試験対策が実施されようと、結果がついてこなければ何の意味もないことは十分承知している。より良い成果に向かって私たち国家試験対策委員会は最善を尽くしたいと考えているので、関係教職員のご協力をお願い申し上げる次第である。来年の学報には、更に良い報告が出来るよう祈念している。

(図1) 最近13年間の国家試験合格率とその順位(新卒)



(表2) 最近4年間の国家試験 学校別・科目別・換算点

第89回 (平成16年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国 (A)	合計	11,048	69.50	60.41	74.36	69.09	72.50
	新卒	8,504	71.63	62.64	76.26	70.89	74.71
	その他	2,544	62.39	52.98	67.98	63.08	65.11
本学 (B)	合計	364	70.48	60.54	76.22	70.10	73.61
	新卒	255	72.75	63.27	78.64	71.31	75.77
	その他	109	65.18	54.14	70.57	67.25	68.56
差異 (B)-(A)	合計		0.98	0.13	1.86	1.01	1.11
	新卒		1.12	0.63	2.38	0.42	1.06
	その他		2.79	1.16	2.59	4.17	3.45

第88回 (平成15年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国 (A)	合計	10,850	70.46	64.73	69.59	76.57	72.60
	新卒	8,345	72.55	67.00	71.16	77.78	74.91
	その他	2,505	63.51	57.16	64.37	72.54	64.90
本学 (B)	合計	402	68.71	62.46	69.40	74.74	70.59
	新卒	284	70.88	64.74	71.51	75.83	72.92
	その他	118	63.47	56.98	64.34	72.12	64.99
差異 (B)-(A)	合計		-1.75	-2.27	-0.19	-1.83	-2.01
	新卒		-1.67	-2.26	0.35	-1.95	-1.99
	その他		-0.04	-0.18	-0.03	-0.42	0.09

(表1) 最近4年間の国家試験成績

区分		受験者 (人)	合格者 (人)	合格率 (%)	新卒 全国平均	
第89回 (H.16)	Y	男	41	41	100.00%	86.42% (86.97%) 3位
		女	122	118	96.72%	
	計	163	159	97.55%		
	S	男	30	28	93.33%	
		女	62	54	87.10%	
計	92	82	89.13%			
総数	255	241	94.51%			
第88回 (H.15)	Y	男	38	30	78.95%	88.52% (89.17%) 23位
		女	120	108	90.00%	
	計	158	138	87.34%		
	S	男	52	44	84.62%	
		女	74	57	77.03%	
計	126	101	80.16%			
総数	284	239	84.15%			
第87回 (H.14)	Y	男	40	34	85.00%	88.59% (89.12%) 25位
		女	101	90	89.11%	
	計	141	124	87.94%		
	S	男	62	44	70.97%	
		女	96	86	89.58%	
計	158	130	82.28%			
総数	299	254	84.95%			
第86回 (H.13)	Y	男	45	34	75.56%	84.08% (84.79%) 25位
		女	130	111	85.38%	
	計	175	145	82.86%		
	S	男	46	33	71.74%	
		女	111	88	79.28%	
計	157	121	77.07%			
総数	332	266	80.12%			

新卒全国平均欄の2段目( )内は、私立大学のデータ、同3段目の順位は、私立大学(29)における順位である。

第87回 (平成14年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国 (A)	合計	11,148	68.43	63.12	63.46	80.93	70.65
	新卒	8,367	70.45	65.31	65.41	82.53	72.69
	その他	2,781	62.34	56.53	57.59	76.11	64.53
本学 (B)	合計	424	66.59	60.55	62.10	80.26	68.82
	新卒	299	69.18	63.02	64.61	82.54	71.56
	その他	125	60.37	54.64	56.12	74.80	62.25
差異 (B)-(A)	合計		-1.84	-2.57	-1.36	-0.67	-1.83
	新卒		-1.27	-2.29	-0.80	0.01	-1.13
	その他		-1.97	-1.89	-1.47	-1.31	-2.28

第86回 (平成13年)

		受験者	平均点	基礎薬学	衛生薬学	薬事法規	医療薬学
全国 (A)	合計	10,683	67.44	64.64	69.32	73.81	67.15
	新卒	8,208	69.53	66.96	71.41	74.88	69.30
	その他	2,475	60.51	56.96	62.40	70.25	60.03
本学 (B)	合計	415	66.61	62.71	70.23	73.18	66.26
	新卒	332	68.55	64.96	72.46	74.28	68.08
	その他	83	58.86	53.69	61.30	68.80	58.98
差異 (B)-(A)	合計		-0.83	-1.93	0.91	-0.63	-0.89
	新卒		-0.98	-2.00	1.05	-0.60	-1.22
	その他		-1.65	-3.27	-1.10	-1.45	-1.05

## 学生相談室からのメッセージ

今年もまた桜が咲き、新しい年度が始まりました。1年次生の皆さんは文字通り新生活がスタートし、張り切っておられることでしょう。その他の学年の皆さんも、気分も新たに学生生活を送っておられることと思います。

さて、皆さんは“アイデンティティ”という言葉を知っていますか？日本語で“自己同一性”などと訳されたりしますが、「自分はこれまでもこれからも他ならぬこの自分である」といった自覚を意味します。あるアメリカの心理学者はこのアイデンティティを確立することが青年期の課題であると言っています。

皆さん、自分を「私は～です」と表現しようと思ったら、どんなことが思いつきますか？「私は○田○子です」「私は女性です」「私は大学生です」「私は明るい性格です」「私は音楽が好きです」などいろいろな言い方ができると思います。そういうことを全部ひっくるめて「自分」と思っていますよね。しかし、そういう「自分」は生まれたときから持っているものばかりではありません。名前や性別はそうですが、性格や好き嫌い、大学生という身分などは、ここまで生きてきた中でだんだんと出来上がってきたものです。「自分」が出来上がってくる過程にはそれなりの連続性があります。大阪薬科大学の学生で、これからプロ野球選手になってやろうとか、トップモデルになってパリコレに出るんだと思っている人はおそくないでしょう。青年期、つまり大学生という時期は、これから社会の中で一人前に生きていくために、これまで出来上がってきた「自分」を仕上げていく時期になります。

ところが、仕上げはそう簡単にはいきません。大学に入ったとたん勉強する意欲が全くなかったとか、今まで目立つのは嫌いだと思っていたけれど、大葉祭実行委員をやったら案外人前に入るのが好きだったとか、これまで「私は～です」と思っていたことが揺らいだりすることがよくあります。揺らぎが大きいと、自分はいったいどういう人間なのか、よく分からなくなったりすることもあります。そこで、ここでもう一度「自分」を見つめ直し、再確認することが必要になってくるのです。

学生相談室では、学生生活の中で生じる様々な悩みの相談に応じています。どんなことでも気楽に相談に来てください。

なお、平成16年度から開室時間が1時間延長になり、木曜日と金曜日の12時から16時まで開室しています。ぜひ利用してください。

皆さんの学生生活がより良いものとなるよう願っています。  
(岡 鈴佳 記)

### 開室時間

毎週木曜日 12:00～16:00 岡 鈴佳  
毎週金曜日 12:00～16:00 児玉 陽子



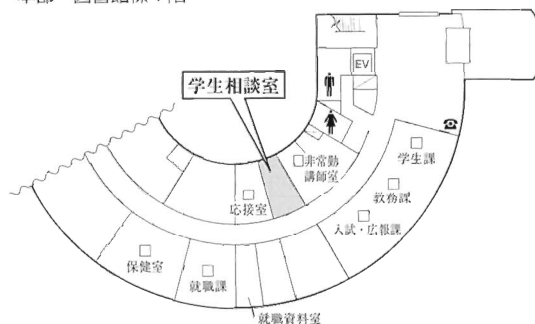
岡 鈴佳相談員



児玉 陽子相談員

### 《場所》

本部・図書館棟1階



tel : (072)690-1077(直通)

mail : counsel@gly.oups.ac.jp



# 新カリキュラムと試験制度・進級要件

教務部長 千熊 正彦

本年度から新カリキュラムがスタートしました。新カリキュラムは、薬系大学の総意で平成14年に作成された「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を大幅に取り入れたものでありますから、全国の大学に先駆けて実施されることとなります。新カリキュラム策定の方針と理念は、石田カリキュラム委員長が学報48号に詳しく述べておられますので、ご参照ください。

新カリキュラムでは、基礎教育科目、基礎薬学科目、応用薬学科目、医療薬学科目および実習がバランスよく配置され、卒業に必要な単位は133.5単位以上であります。

試験制度としては、3および4年次の特別再試験に受験制限条件が追加されました。すなわち、3および4年次の再試験終了時において、進級あるいは卒業に必要な必修および選択必修科目の未修得科目が5科目を超えると、それぞれ受験資格が与えられないことになりました。旧カリキュラムにおいては、このような未修得科目の数による特別再試験受験資格の制限はありませんでした。

次に今回改定された進級要件を述べます。新しい進級要件の内容は旧カリキュラムのそれに比べて、単純で分かりやすくなったと考えております。

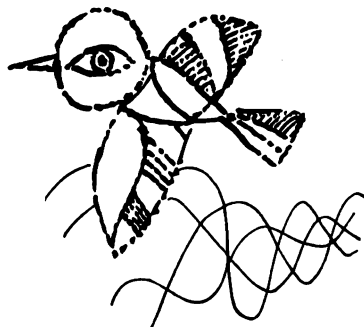
2年次生への進級要件：実習、演習、実技を含む必修および選択必修科目の未修得科目の合計が7科目以下であること。

3年次生への進級要件：2年次までに課せられた実習、演習、実技を含む必修科目および選択必修科目の未修得科目が7科目以下であること。

4年次生への進級要件：卒業に必要な基礎教育科目および基礎薬学科目をすべて修得していること。3年次までに課せられた応用薬学科目および医療薬学科目の必修科目の未修得科目が7科目以下であること。3年次までに課せられた実習の単位をすべて修得していること。

卒業要件：薬学科、生命薬学科ともに合計133.5単位以上を修得していること。

カリキュラム改定に際して、毎回問題になるのは、病気による休学などのために新カリキュラムの適用を受ける学生が生じることであります。従来どおり「留年学生に不利にならないように配慮する」という原則で対処いたしますが、担当教員の皆様におかれましても、個別にご指導いただくなど、ご協力をお願いします。



# 平成15年度後期授業・実習評価アンケート

教務部長 千熊 正彦

平成15年度後期の授業・実習評価アンケートの結果をご報告します。本授業・実習評価アンケートは、1～4年次生を対象に特別実習を除くすべての講義・実習・演習において実施しております。本年度後期の結果の集計を概観いたしますと、設問のほとんどが3.5ポイント以上であり、それぞれの設問に対するポイントは昨年同期（学報47号）の値とほぼ同様であります。「授業によく出席したか？」という設問が4.7ポイントで最も高く、最も低いポイントの設問は、「授業を理解するよう予習・復習をしたか？」であり、3.1ポイントでした。予習・復習をしている学生が少ないことは、改善されるべき問題点の一つであり、科目担当者の創意工夫が求められるところであると考えられます。

各設問間の相関を見るなどして、詳しい解析を行うとともにさらに実りある授業改善の指針が得られると考えられますが、実施以来3年の間に、いくつかの設問に問題点があるという指摘を受けておりましたので、教務部委員会では、まずそれらを改訂することいたしました。設問2の「板書が適切で授業の理解に役立ったか？」という設問について、板書以外の方法、例えば、プリントを配付したり、OHPやスライドなどを取り入れ、板書をあまり行わない教員が増えてきているという指摘がありました。この設問のポイントが3.6と低いのは、プリントを配付することにより板書をしなかった教員に対して低いポイントが与えられたためとも考えられましたので、「板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか？」という設問に変えました。また、設問11の「授業内容のレベルは適切だったか？」では、レベルの高低を明確にすべきだという反省がありました。レベルが高すぎて適切でないのか、あるいは逆に低すぎて適切でないのが不明であるため、ポイントの数字をみても授業改善につなげるのが難しいということでもあります。この設問は「授業内容のレベルは、5非常に難しい、4難しい、3適切、2簡単、1簡単すぎる」という設問に変えました。改訂した設問11では3.0に近いほど好ましいポイントとなります。

本授業・実習評価アンケートの目的は、各担当教員が自分の授業の改善に役立てることであり、また

学生が自分の受講態度や意欲を省みることであります。本アンケートが十分に活かされることを願っています。

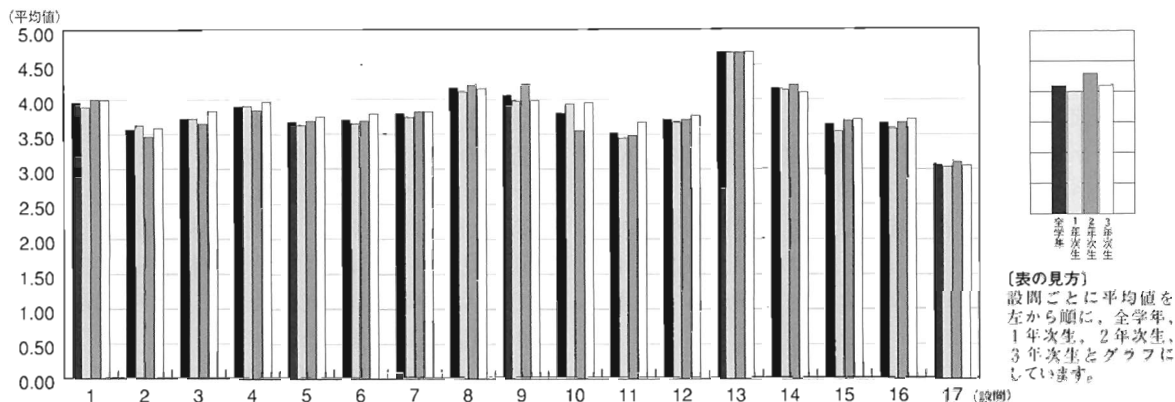
	全学年	1年次生	2年次生	3年次生
延べ履修人数	10,465名	3,472名	3,744名	3,249名
延べ回答人数	6,563名	2,656名	2,207名	1,700名
回答率	62.7%	76.5%	58.9%	52.3%

## 〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書が適切で授業の理解に役立ちましたか
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されておりましたか
4. 授業は、「授業の内容」(シラバス)に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされておりましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されておりましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. テキストやその他の教材を使用していた場合、それは適切に行われておりましたか
10. 休講があった場合、その補いは十分にされておりましたか
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切と思われませんか
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください  
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）しておりましたか

回答は、5-そう思う（5ポイント）、4-どちらかといえばそう思う（4ポイント）、3-どちらともいえない（3ポイント）、2-あまりそうは思わない（2ポイント）、1-そうは思わない（1ポイント）から選択。但し、設問2、9、10については、0-該当しない（0ポイント）を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

# 平成15年度後期授業評価アンケート集計



## 全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい うほど思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.95	32.4%	38.9%	21.6%	5.5%	1.5%	-	0.0%
2	3.56	20.6%	30.6%	30.9%	10.7%	3.7%	3.4%	0.1%
3	3.72	24.5%	35.8%	29.4%	8.0%	2.2%	-	0.1%
4	3.89	27.5%	36.1%	32.5%	1.7%	0.6%	-	1.5%
5	3.67	23.1%	35.3%	29.9%	8.7%	2.9%	-	0.1%
6	3.70	25.0%	33.2%	31.0%	7.6%	3.0%	-	0.3%
7	3.79	26.6%	34.2%	31.8%	5.0%	2.0%	-	0.4%
8	4.16	42.8%	35.9%	16.6%	3.2%	1.3%	-	0.2%
9	4.05	34.1%	31.8%	18.1%	3.4%	1.5%	10.8%	0.4%
10	3.79	10.0%	6.5%	9.8%	1.1%	1.4%	69.6%	1.6%
11	3.51	15.9%	34.7%	37.0%	9.2%	3.1%	-	0.1%
12	3.70	21.0%	38.9%	31.2%	6.4%	2.1%	-	0.4%
13	4.67	75.1%	17.8%	5.8%	0.7%	0.3%	-	0.3%
14	4.15	41.6%	36.5%	17.7%	2.9%	0.9%	-	0.4%
15	3.63	23.0%	32.3%	32.5%	8.6%	3.2%	-	0.4%
16	3.65	22.8%	33.6%	31.8%	8.3%	3.1%	-	0.4%
17	3.06	10.3%	21.9%	40.3%	17.3%	9.7%	-	0.4%

## 1年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい うほど思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.89	32.2%	34.4%	25.9%	5.6%	1.9%	-	0.0%
2	3.62	24.1%	29.0%	32.8%	9.3%	3.5%	1.2%	0.2%
3	3.72	25.4%	33.3%	31.3%	7.3%	2.6%	-	0.0%
4	3.90	29.3%	33.3%	34.3%	1.5%	0.7%	-	0.8%
5	3.62	23.8%	31.3%	32.3%	8.7%	3.9%	-	0.1%
6	3.65	24.8%	29.9%	33.5%	7.7%	3.8%	-	0.2%
7	3.74	24.2%	33.8%	35.1%	4.6%	2.1%	-	0.2%
8	4.11	42.4%	32.2%	20.8%	2.9%	1.5%	-	0.2%
9	3.97	30.5%	26.5%	21.7%	2.9%	1.8%	16.5%	0.2%
10	3.93	9.3%	5.2%	8.1%	0.3%	0.8%	75.5%	0.9%
11	3.44	16.4%	30.1%	38.4%	11.0%	4.0%	-	0.1%
12	3.66	21.2%	35.4%	33.4%	6.6%	2.9%	-	0.4%
13	4.67	76.9%	15.2%	6.3%	1.1%	0.5%	-	0.1%
14	4.14	41.1%	35.7%	19.5%	2.5%	0.8%	-	0.3%
15	3.54	21.5%	28.0%	36.9%	9.4%	3.8%	-	0.3%
16	3.58	22.2%	30.4%	34.6%	8.7%	3.9%	-	0.2%
17	3.03	10.6%	20.3%	40.6%	18.0%	10.2%	-	0.3%

## 2年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい うほど思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.00	32.0%	42.2%	20.2%	4.5%	1.0%	-	0.1%
2	3.46	17.1%	32.7%	31.9%	12.6%	4.3%	1.2%	0.2%
3	3.65	20.7%	36.9%	31.1%	9.2%	1.9%	-	0.2%
4	3.84	23.0%	38.3%	34.0%	1.5%	0.5%	-	2.6%
5	3.68	21.7%	37.4%	29.9%	8.8%	2.1%	-	0.2%
6	3.69	22.2%	35.3%	33.2%	7.3%	1.7%	-	0.2%
7	3.82	27.8%	34.3%	30.8%	4.8%	1.8%	-	0.5%
8	4.21	42.7%	39.5%	14.3%	2.5%	0.7%	-	0.3%
9	4.21	37.3%	35.6%	13.6%	1.9%	0.5%	10.3%	0.8%
10	3.55	9.2%	6.9%	12.5%	1.9%	2.6%	64.2%	2.8%
11	3.48	13.0%	36.0%	38.9%	9.3%	2.5%	-	0.2%
12	3.71	18.4%	41.9%	32.9%	5.1%	1.2%	-	0.5%
13	4.67	74.2%	18.9%	6.0%	0.5%	0.2%	-	0.2%
14	4.21	42.0%	39.8%	15.5%	2.4%	0.2%	-	0.2%
15	3.69	21.9%	36.5%	31.8%	7.4%	2.2%	-	0.2%
16	3.67	20.3%	37.3%	33.1%	7.2%	1.9%	-	0.2%
17	3.10	8.0%	23.9%	44.4%	17.3%	6.1%	-	0.3%

## 3年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい うほど思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.99	33.4%	41.6%	16.9%	6.8%	1.3%	-	0.0%
2	3.58	19.8%	30.4%	25.5%	10.6%	3.3%	9.5%	0.1%
3	3.83	28.1%	38.4%	24.1%	7.4%	2.1%	-	0.1%
4	3.96	30.5%	37.7%	27.6%	2.4%	0.6%	-	1.2%
5	3.74	24.1%	38.8%	26.2%	8.6%	2.2%	-	0.1%
6	3.79	28.8%	35.7%	24.1%	7.7%	3.3%	-	0.4%
7	3.82	28.6%	34.6%	28.0%	5.9%	2.2%	-	0.5%
8	4.16	43.5%	37.0%	13.0%	4.5%	1.9%	-	0.1%
9	3.98	35.6%	35.3%	18.2%	6.1%	2.3%	2.4%	0.2%
10	3.95	12.2%	7.9%	8.9%	1.3%	0.8%	67.6%	1.4%
11	3.67	18.8%	40.2%	32.2%	6.4%	2.4%	-	0.1%
12	3.77	24.0%	40.4%	25.4%	7.9%	2.0%	-	0.4%
13	4.68	73.5%	20.3%	4.8%	0.4%	0.2%	-	0.8%
14	4.10	41.8%	33.5%	17.8%	4.3%	1.8%	-	0.8%
15	3.71	26.6%	33.4%	26.6%	8.9%	3.6%	-	0.8%
16	3.72	27.1%	33.9%	25.6%	9.0%	3.6%	-	0.8%
17	3.05	12.8%	22.1%	34.5%	16.2%	13.5%	-	0.9%

## ■ 平成16年度公開教育講座 ■

## ■ 平成16年度市民講座 ■

本講座を受講された方には大阪薬科大学から修了証をお渡しし、薬剤師の方には、(財)日本薬剤師研修センターの「研修認定薬剤師制度」による単位認定をいたします(1日2単位)。

また、(社)大阪府薬剤師会から「薬剤師生涯教育受講証」も発行いたします。その他、近畿2府4県の病院薬剤師会からの単位認定も予定していません。

### 第37回大阪薬科大学公開教育講座

日時：平成16年7月24日(土)13:30~17:00  
会場：梅田スカイビルタワーウエスト36階会議室L  
受講料：本学卒業生 2,000円/その他 3,000円  
主 題：『医療制度の変革(1)』

演題/講師：「薬剤師をめぐる環境の変化—6年制時における薬学教育をとおして—」  
北海道薬科大学  
社会薬学分野教授 早瀬幸俊氏  
「医療・薬事制度と社会1—将来の薬局像(一考察)—」  
大阪府健康福祉部薬務課長 織田美夫氏

### 第38回大阪薬科大学公開教育講座

日時：平成16年11月20日(土)13:30~17:00  
会場：梅田スカイビルタワーウエスト36階会議室L  
受講料：本学卒業生 2,000円/その他 3,000円  
主 題：『医療制度の変革(2)』

演題/講師：「医療・薬事制度と社会2」(仮題)  
(社)大阪府薬剤師会会長 児玉 孝氏  
「諸外国における医療教育・制度と薬剤師」(仮題)  
演者未定

主に市民の方を対象として実施している恒例の市民講座を、本年度も開催します。講演内容は参加者の皆様のアンケート結果を参考に決定し、市民の方々が参加しやすい講座になるよう努めています。

第17回では同時に、「くすりの相談室」、「薬用植物園の見学」も行い、「くすりの相談室」では第一線でご活躍中の薬剤師の方々が、くすりに関するあらゆる相談に応じました。

なお、本年度は本学創立百周年に当たることから、第18回大阪薬科大学市民講座は大阪薬科大学創立百周年記念市民講座として学外で開催します。このため「くすりの相談室」、「薬用植物園の見学」は実施いたしませんのでご了承ください。

### 第17回大阪薬科大学市民講座

日時：平成16年5月22日(土)13:00~16:00  
会場：大阪薬科大学 講堂  
定 員：350名(先着順/申込み不要)  
受講料：無料

演題/講師：「高血圧はなぜ怖い？」  
大阪薬科大学病態分子薬理学研究室教授 松村靖夫氏  
「健やかに老いるため：骨粗しょう症、生活習慣病について」  
愛仁会高槻病院院長 簡泉正春氏

### 大阪薬科大学創立百周年記念市民講座 (第18回大阪薬科大学市民講座)

日時：平成16年9月26日(日)14:30~16:00  
会場：IMPホール [大阪ビジネスパーク]  
定 員：850名(先着順/申込み不要)  
受講料：無料

演題/講師：「生きがい」は人生の妙薬  
ノンフィクション作家 柳田邦男氏

# 平成16年度学校法人予算

事務局長 肥塚 敏彰

学校法人大阪薬科大学の平成16年度予算については、理事会の予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行ったが、去る平成16年3月23日（火）に開催された理事会および評議員会において承認されたので、資金収支予算書（総括表）を掲載し、その概要を説明したい。

## （総括）

平成16年度の収入予算総額（収入の部合計—前年度繰越支払資金）は34億8,420万円、支出予算総額（支出の部合計—一次年度繰越支払資金）は33億9,720万円であり、差引き8,700万円の収入超過となる。

## （収入の部）

### （学生生徒等納付金収入）

授業料15億2,960万円、入学金1億2,750万円、施設・設備費7億2,480万円他を計上した。

### （手数料収入）

入学検定料1億4,000万円他を計上した。

### （寄付金収入）

受取者指定寄付金7,000万円、同窓会特別寄付金2,000万円を含め1億600万円を計上した。

### （補助金収入）

私立大学等経常費補助金2億6,700万円、研究設備・施設整備費補助金2,500万円他を計上した。

### （事業収入）

附属薬局の収入予算4億2,800万円他を計上した。

## （支出の部）

### （人件費支出）

教員人件費は教員充実予算3,000万円を含め9億5,550万円、職員人件費は附属薬局分を含め4億4,290万円を計上した。

### （教育研究経費支出）

大阪薬科大学奨学金給付金（特待奨学金・一般奨学金）170万円、紀要400万円、自己点検・評価報告書450万円、学内ネット等管理者アウトソーシング1,000万円、プログラム修正（カリキュラム改正）450万円、（財）大学基準協会加盟判定審査料100万円他を計上した。

### （管理経費支出）

百周年記念事業（百年史の刊行、記念式典・記念講演の実施他）4,650万円、附属薬局の物件費3億8,710万円他を計上した。

### （設備関係支出）

2F・2G講義室天吊液晶プロジェクター取付200万円、OCRの更新363万円、資料室の整備・充実（百周年記念事業）1,000万円他を計上した。

### （資産運用支出）

教育奨学基金の創設7,000万円、国際交流基金の創設3,000万円、計1億円を特定資産への繰り入れとして計上した。

### （その他の支出）

大阪薬科大学奨学金貸付金（一般奨学金）700万円、育友会学費融資制度貸付金（平成16年度のみ計上）1,000万円他を計上した。

## 資金収支予算書（総括表）

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

科 目	収入の部 (単位 千円)		
	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金収入	2,384,900	2,394,000	△ 9,100
手数料収入	150,200	141,000	9,200
寄付金収入	106,000	16,000	90,000
補助金収入	294,300	294,800	△ 500
資産運用収入	30,000	10,000	20,000
事業収入	431,000	399,600	31,400
雑収入	62,500	41,100	21,400
前受金収入	417,500	437,200	△ 19,700
その他の収入	157,800	171,900	△ 14,100
資金収入調整勘定	△ 550,000	△ 547,800	△ 2,200
前年度繰越支払資金	2,460,000	2,323,000	137,000
収入の部 合計	5,944,200	5,680,800	263,400

科 目	支出の部 (単位 千円)		
	本年度予算額	前年度予算額	増 減
人件費支出	1,486,500	1,396,500	90,000
教育研究経費支出	549,300	603,700	△ 54,400
管理経費支出	537,600	447,800	89,800
借入金等利息支出	150,400	167,500	△ 17,100
借入金等返済支出	344,500	344,500	0
施設関係支出	900	15,900	△ 15,000
設備関係支出	192,700	195,600	△ 2,900
資産運用支出	100,000	15,000	85,000
その他の支出	181,000	165,500	15,500
(予備費)	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△155,700	△136,500	△ 19,200
次年度繰越支払資金	2,547,000	2,455,300	91,700
支出の部 合計	5,944,200	5,680,800	263,400

## 総務課だより

### ■ 人 事

採 用 (平成16年4月1日付)

事務職員 谷口 誠亮 (教務課)

退 職 (平成16年2月17日付)

石川 雅人 (事務職員)

(平成16年3月31日付)

松村 瑛子 (教授) (定年)

豊元 操 (助手)

大谷 恵子 (附属薬局薬剤師)

高橋 勉 (薬用植物園技術職員) (任期満了)

昇 任 (平成16年1月1日付)

講 師 友尾 幸司 (助手)

(平成16年4月1日付)

教 授 辻坊 裕 (助教授)

助 授 浦田 秀仁 (講師)

併 任 (平成16年1月1日付)

共同研究センター長

千熊 正彦 (教授) 任期1年

(平成16年2月1日付)

総合薬学系機能分子科学部門長

栗原 拓史 (教授) 任期1年

総合薬学系分子薬科学部門長

木村捷二郎 (教授) 任期1年

総合薬学系生命薬科学部門長

松村 靖夫 (教授) 任期1年

(平成16年3月13日付)

総合薬学系臨床薬学教育研究群長

田中 一彦 (教授) 任期1年

(平成16年4月1日付)

就 職 部長 田中 一彦 (教授) 任期2年

図 書 館 長 石田 寿昌 (教授) 任期2年

研究委員長 松村 靖夫 (教授) 任期2年

特別管理産業廃棄物管理責任者

藤田 芳一 (助教授)

情報システム支援室長

福永 治久 (図書課長・資料室長)

退 任 (平成16年1月31日付)

沼田 敦・総合薬学系機能分子科学部門長 (任期満了)

松村 瑛子・総合薬学系生命薬科学部門長 (任期満了)

(平成16年3月31日付)

栗原 拓史・図書館長 (任期満了)

天野富美夫・研究委員長 (任期満了)

配置換え (平成16年4月1日付)

宇佐美吉英 (総合薬学系機能分子科学部門 (有機分子機能化学研究室))

山田 剛司 (総合薬学系機能分子科学部門 (医薬品化学研究室))

坂口 実 (総合薬学系生命薬科学部門 (生命薬科学研究室))

(平成16年6月1日付)

小谷川洋子 (総務課主任/入試・広報課主任より)

崎山 祐子 (入試・広報課主任/経理課主任より)

藤田 梨詒 (学生課/総務課より)

小牧 優 (経理課/学生課より)

嘱 託 (平成16年4月1日付 任期1年)

稲森 善彦 (教授)

松村 瑛子 (教授)

高橋 勉 (薬用植物園技術職員)

柚木 孝士 (校医) (非常勤)

岡 鈴佳 (学生相談室相談員) (非常勤)

児玉 陽子 (学生相談室相談員) (非常勤)

解 嘱 (平成16年3月31日付)

沼田 敦 (教授)

招へい教授 (平成16年4月1日付 期間1年)

中川 照眞 (客員研究員)

濱 六郎 (客員研究員)

非常勤講師 (平成16年4月1日付)

<学部>

秋岡 壽 (臨床医学概論)

今泉 昌利 (臨床医学概論)

井原美保子 (看護学総論)

太田 光熙 (臨床生化学)

笠原 伸元 (医療総合講座)

木村 文治 (臨床医学概論)

小松 敏彦 (健康科学演習)

斎藤 武 (数学1、物理学2)

田口 侑男 (数学1、物理学2)

戸田 有一 (人間と文化1b-人間と心理-、洋書講読ゼミ1)

中村 益久 (毒性学、臨床薬理学2)  
 中村 恵 (ドイツ語1、ドイツ語2、ドイツ語3、洋書講読ゼミ1)  
 中山 悌一 (健康科学演習)  
 林 恭平 (生物統計学)  
 樋口 久 (英語1)  
 藤田 義孝 (フランス語2、フランス語3、洋書講読ゼミ1)  
 古川 恵三 (臨床医学概論)  
 梶矢 桂一 (ドイツ語1、ドイツ語2、洋書講読ゼミ1)  
 三谷 仁美 (人間と文化1 a-人間と法一)  
 山元 弘 (免疫学)  
 米田 孝司 (臨床検査総論)  
 Joseph Michael Jacobs (英語3)  
 Julianne Gay Whitlam (英語3)  
 Anthony FW Foong (洋書講読ゼミ1)

#### 非常勤助手

宮田 真希 (健康科学演習)

#### <大学院>

上野 和行 (臨床医学Ⅲ (臨床薬剤学Ⅱ))  
 桂 敏也 (臨床薬物動態学Ⅱ)  
 河北誠三郎 (病態生理学Ⅱ)  
 濱 六郎 (薬剤疫学)  
 林 敬次 (臨床医学Ⅰ)  
 平田 純生 (薬物治療学Ⅱ (臨床薬剤学Ⅰ))  
 藤田 譲 (臨床心理学)  
 三浦 克之 (薬効安全性学(医療薬学Ⅱ(薬理学)))  
 光木 徹 (臨床医学Ⅱ)

#### 客員研究員 (平成16年4月1日付 期間1年)

中川 照眞  
 中村 益久  
 濱 六郎  
 (平成16年6月1日付 期間1年)  
 木戸 勝

#### 名誉教授 (平成16年4月1日付)

沼田 敦

#### ■ 慶 弔

##### <叙 勲>

山口 秀夫 名誉教授 平成16年4月29日  
 瑞室小綏章

岡本 彰 評議員 平成16年4月29日  
 旭日小綏章

##### <訃 報>

藤原 富男 元評議員 平成16年4月22日逝去

#### ■ 実験動物慰霊祭

平成15年12月10日(水)午後0時30分より講堂において、実験動物慰霊祭が日頃実験動物を取扱っている教職員、学生等約300名参列のもと、しめやかに執り行われました。



#### ■ 大阪薬科大学ハイテク・リサーチセンター 平成15年度公開シンポジウム

平成15年12月6日(土)午後1時より、本学において、大阪薬科大学ハイテク・リサーチセンター平成15年度公開シンポジウム「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」が下記のプログラムにて開催されました。途中、ポスターセッションもあり、盛況裡に終了しました。

1. 演 題 「循環器疾患におけるエンドセリンの役割」  
 演 者 大阪薬科大学病態分子薬理学研究室  
 教 授 松村 靖夫
2. 演 題 「高血圧および腎障害進行におけるレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系と酸化ストレスの役割」  
 演 者 香川大学医学部  
 助 手 西山 成
3. 演 題 「細菌のキチン分解系に關与する遺伝子の発現調節機構」  
 演 者 大阪薬科大学微生物学教室  
 助教授 辻坊 裕

#### 4. 演題「薬学領域における核内受容体研究」

演者 大阪大学大学院

助教授 西川 淳一



#### ■ 退職記念講演

下記のとおり、退職記念講演が行われました。

沼田 敦 教授

日時 平成16年3月19日（金）午後1時30分

演題 「自然からの贈り物」

場所 講義室2A



#### ■ 名誉教授称号授与式

平成16年5月26日（水）午前11時20分より学長室において、沼田敦元教授に対する大阪薬科大学名誉教授称号授与式が挙行されました。



#### ■ 学位記授与式

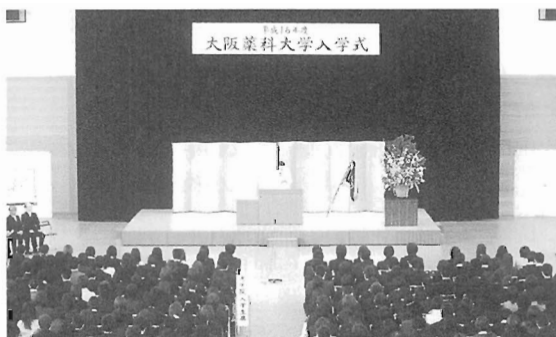
平成16年3月13日（土）午前10時30分より体育館において、平成15年度大阪薬科大学学位記授与式（学部255名、大学院博士前期（修士）課程34名）が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。

なお、学部卒業生のうち、各学科成績最優秀者の高岡章子（薬学科）、野村麻以（製薬学科）に対し、本学同窓会から表彰状と副賞が贈呈されました。



#### ■ 入学式

平成16年4月5日（月）午前10時30分より体育館において、平成16年度大阪薬科大学学部ならびに大学院入学式（学部321名（2年次編入学者6名を含む）、大学院博士前期（修士）課程53名）が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。





## ■ 研究助成

### \*大阪薬科大学同窓会研究助成金

(平成16年3月13日)

友尾 幸司(薬品物理化学教室講師)

研究題目「新規抗ガン剤の開発を目指した蛋白質合成開始因子4Eの機能制御機構の解明」

### \*笹川科学研究助成金

(平成16年4月23日)

熊代 哲也(博士後期課程2年次生)

研究題目「抗HIV-1活性を有するL型DNAへの生体膜透過能付与による多重標的阻害と抗HIV-1活性増強効果の検討」

## ■ 受賞

### \*市民表彰(大阪市)(平成15年11月25日受賞)

川島 康生(理事長)

「多年にわたる心臓移植手術の研究と実現に尽力し、医学の振興と発展に貢献」

## ■ 故 近藤美恵元理事・評議員ご遺族よりの寄贈

平成15年10月21日付で故近藤美恵元理事・評議員のご遺族より、故人が保有されていた帝国女子薬学専門学校時代の校章、薬剤師免許、卒業証書、写真等をご寄贈いただきました。

## ■ 海外出張

玄番 宗一 教授(薬理学教室)

<出張期間:平成16年1月31日～2月7日>

第3回アジアトキシコロジー国際会議(タイ・バンコク)

馬場きみ江 教授(生薬科学教室)

谷口 雅彦 講師(生薬科学教室)

<出張期間:平成16年5月2日～5月5日>

中国におけるアシタバの栽培および商品開発のための技術指導(中国・海南省)

## 平成16年度 科学研究費補助金採択状況

区分	職名	氏名	研究種目	研究課題	配分額(千円)
継続	助教授	大桃 善朗	基盤研究(C)	脳神経疾患におけるシグマレセプター機能解析のためのインビボ核医学診断剤の開発	500
	教授	松村 靖夫	基盤研究(C)	腎虚血再灌流障害の分子機構	700
	助手	宮本 勝城	基盤研究(C)	海洋細菌が菌体外に分泌する各種プロテアーゼの生理的役割	700
	講師	大石 宏文	基盤研究(C)	ポリアミンと左巻きDNAの相互作用に関する構造科学的研究	900
	教授	天野富美夫	基盤研究(C)	新規病原性関連遺伝子産物SEp22がサルモネラの環境における生存性に及ぼす影響	1,300
	教授	掛見 正郎	基盤研究(C)	メカニズムに基づいたPK-PD解析モデルによる医薬品最適投与計画の再評価	700
	助手	平田 雅彦	若手研究(B)	癌の早期診断と治療を目指したVEGFRチロシンキナーゼ活性診断用放射性薬剤の開発	700
	特別研究員	米田 誠治	特別研究員奨励費	アゾール架橋白金二核錯体の物理化学的性質及び生体高分子との相互作用に関する研究	1,100
新規	教授	辻坊 裕	基盤研究(C)	細菌のキチン分解系に関与する遺伝子の発現調節機構	1,900
	助教授	春沢 信哉	基盤研究(C)	RNA触媒及びH4受容体機能解明のためのイミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究	1,300
	教授	千熊 正彦	基盤研究(C)	ヒドロキソ架橋型制がん活性白金複核錯体の新奇反応に関する研究	2,800
	教授	栗原 拓史	基盤研究(C)	イミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究に基づくH4受容体及びRNA触媒機能解明	1,300
合計		12名			13,900

## 就職課だより

### 【本学卒業生の10年間の進路状況変化】

本学卒業生の10年間の進路・就職状況の変化は(表1)に示すとおりである。

平成15年度の卒業生(51期生)の進路・就職先のトップは大学院への進学で28.6%、次いで薬局(ドラッグストアも含む)が27.5%と多く、両部門には4人に1人以上の学生が進んでいる。次いで、薬業関連企業の18.0%、病院・診療所、病院研修生の16.5%、公務員・教職員の2.0%となっている。ほぼ10年前の平成5年度(41期生)をみると、進路・就職先のトップは、薬業関連企業で35.2%、次いで、病院・診療所、病院研修生の26.3%、大学院への進学は20.0%、公務員・教職員は7.7%、薬局は4.0%であった。この推移は、全国の薬科大学(学部)卒業生の就職変遷(表2)とほぼ同傾向である。このように「薬業関連企業」から「薬局」への流れが顕著である。また、学部卒業の進路という観点では、大学院への進学が1位で高学歴化が進んでいる。これらは薬学教育6年制の動向、急速な医薬分業の進展により薬局勤務薬剤師の需要が高まり、学生の就職先職種が大きく変化してきていることや、薬業関連

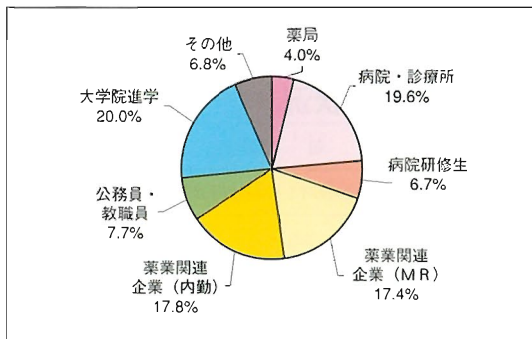
企業において質の高い学生を求める厳選採用が定着してきたことが一因である。さらに、病院勤務薬剤師は欠員補充的な採用傾向にあり、これらの方面への就職を希望する学生にとっては厳しい採用状況となっている。

これらからも伺えるように、近年の就職状況は、多くの学生が希望する進路と職種別求人状況にギャップが生じている。薬学を修めた学生の就職状況は、急速な医薬分業の進展で一旦堅調にみえるが、職種別にみれば現時点でも厳しい状況下にある。また今後、薬業界・医療業界では今まで以上に選択と集中による構造改革・厳選採用が定着し、全職種で厳しい就職戦線になると予測される。

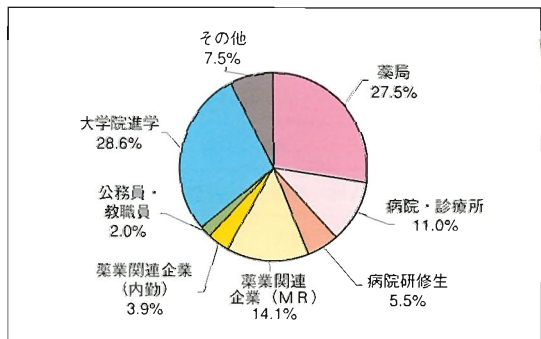
本学の学生は、特別実習・講義・試験など過密スケジュールに追われているため、就職部委員会・就職課においては、就職活動の負担を少しでも軽減し、効率よく就職活動に取り組めるよう柔軟な対応に努めている。また、企業の採用早期化に対する対策を立てるなど、就職状況の変化に応じたスピーディーで確かな情報の提供を行うことによって、満足のいく就職活動ができるよう努めている。

(表1) 本学(大阪薬科大学)卒業生の就職動向

【平成5年度卒業生(41期生)／平成6年3月卒業】

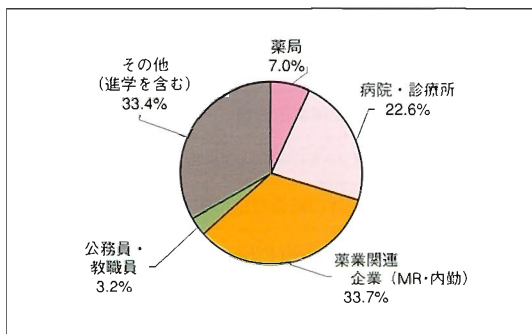


【平成15年度卒業生(51期生)／平成16年3月卒業】

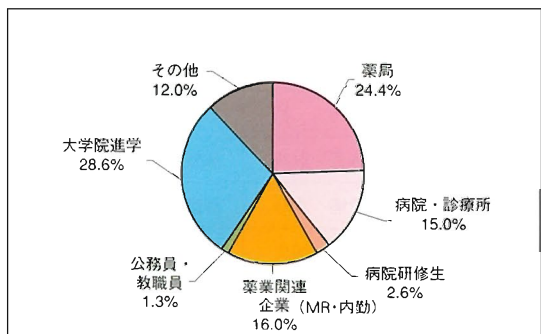


(表2) 全国薬科大学(学部)卒業生の就職動向 [薬学教育協議会資料より]

【平成4年度全国薬科大学／平成5年3月卒業生】



【平成14年度全国薬科大学／平成15年3月卒業生】



## 教務課だより

### ◇ 学位授与

#### [博士]

論博第37号 博士(薬学) 王 年鶴

セリ科生薬に関する薬科学的研究

(平成16年3月24日付)

論博第38号 博士(薬学) 坂口 実

牛乳カゼイン由来オピオイドペプチド $\beta$ -Casomorphinsの神経機能調節作用に関する研究

(平成16年3月24日付)

#### [修士]

修士(薬学) 男子26名 女子8名 合計34名

(平成16年3月13日付)

#### [学士]

学士(薬学) 薬学科0名 製薬学科2名

男子2名 女子0名 合計2名

(平成15年12月31日付)

学士(薬学) 薬学科163名 製薬学科92名

男子71名 女子184名 合計255名

(平成16年3月13日付)

## 平成16年度前期行事予定 (大 学 院)

- 4.5 (月) 入学式
- 4.8 (木) 前期特論開始
- 4.15 (木) 前期特論選択科目履修届提出締切  
午後3時(教務課)
- 4.30 (金) 創立記念日(5月9日)の振替休日
- 5.9 (日) 創立記念日
- 6.7 (月) 臨床実務研修報告会
- 6.21 (月) } 平成17年度修士課程推薦入学試験出願受付
- 6.25 (金)
- 7.5 (月) 平成17年度修士課程推薦入学試験
- 7.13 (火) 平成17年度修士課程推薦入学試験合格者発表
- 7.20 (火) } 平成17年度修士課程一般入学試験出願受付
- 7.30 (金)
- 7.21 (水) 前期特論終了
- 8.20 (金) 平成17年度修士課程一般入学試験
- 8.31 (火) 平成17年度修士課程一般入学試験合格者発表

## 平成16年度前期行事予定 (学 部)

- 4.5 (月) 入学式
- 4.6 (火) 新入生ガイダンス・アドバイザー面談
- 4.7 (水) 校医講演・新入生健康診断
- 4.8 (木) 前期授業開始  
健康診断(新入生以外の学生・職員の女子)
- 4.9 (金) 健康診断(新入生以外の学生・職員の男子)
- 4.14 (水) 前期選択科目履修届提出締切(1~3年次生)  
午後3時(教務課)
- 4.21 (水) 第89回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)
- 4.30 (金) 創立記念日(5月9日)の振替休日
- 5.7 (金) 新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]
- 5.9 (日) 創立記念日
- 5.10 (月) 薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)
- 6.5 (土) 学友会球技大会
- 6.11 (金) 前期授業終了(4年次生)
- 6.14 (月) 就職ガイダンス(3年次生)
- 6.17 (木) } 前期定期試験(4年次生)
- 6.22 (火)
- 6.23 (水) 前期定期試験(4年次生)欠席届提出締切  
午後1時(教務課)
- 7.14 (水) 前期授業終了(1~3年次生)
- 7.15 (木) 前期授業予備日
- 7.16 (金) } 前期定期試験(1~3年次生)
- 7.30 (金)
- 8.2 (月) 前期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切  
午後1時(教務課)
- 8.27 (金) 前期再試験受験者発表(4年次生)
- 8.31 (火) 前期再試験受験者発表(1~3年次生)
- 9.3 (金) } 前期再試験(4年次生・1~4年次全科目)9.11(土)を含む
- 9.15 (水)
- 9.4 (土) 平成17年度編入学試験(H方式)
- 9.6 (月) } 前期再試験(1~3年次生)9.11(土)を含む
- 9.15 (水)
- 9.8 (木) 平成17年度編入学試験(H方式)合格者発表
- 9.16 (木) 後期授業開始(1~3年次生)
- 9.24 (金) 特別再試験受験者発表(4年次生)
- 9.25 (土) 平成17年度AO入学試験(A方式)第一次選考
- 9.26 (日) 大学入試センター試験[英語]リスニングテスト試行テスト
- 9.27 (月) 就職ガイダンス(3年次生)

## 学生課だより

### ◆ 健康管理について

平成16年度 学生定期健康診断受診状況 (4/7, 8, 9実施) ※全項目受診者数

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計
男	119	52	63	81	19	27	—	2	—	363
	120	98	109	109	19	28	—	2	—	485
女	191	108	123	169	34	24	—	1	—	650
	198	202	221	197	34	28	—	1	—	881
計	310	160	186	250	53	51	—	3	—	1,013
	318	300	330	306	53	56	—	3	—	1,366
受診率	97.5% <98.6>	53.3% <20.2>	56.4% <59.5>	81.7% <87.0>	100.0% <95.0>	91.1% <97.1>	— <100>	100% <->	— <0>	74.2% <67.1>

< > 内は平成15年度

平成16年度 胸部X線受診状況 (4/7, 8, 9実施)

※全項目受診者数

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	総計	職員
男	119	52	63	81	19	27	—	2	—	363	53
	120	98	109	109	19	28	—	2	—	485	78
女	191	108	123	169	34	24	—	1	—	650	17
	198	202	221	197	34	28	—	1	—	881	34
計	310	160	186	250	53	51	—	3	—	1,013	70
	318	300	330	306	53	56	—	3	—	1,366	112
受診率	97.5% <98.6>	53.3% <24.7>	56.4% <68.4>	81.7% <92.3>	100.0% <95.0>	91.1% <97.1>	— <100>	100% <->	— <0>	74.2% <71.5>	62.5% <61.1>

< > 内は平成15年度

平成15年度 保健室利用状況 (H15.4.1~H16.3.31)

月	利用者別		利用内容別					計
	学生	職員	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送	
4	221	10	26	47	150	7	1	231
5	317	10	32	55	216	24	0	327
6	337	5	32	42	242	26	0	342
7	242	13	33	42	171	9	0	255
8	67	3	13	7	47	2	1	70
9	95	6	9	25	58	8	1	101
10	187	15	25	52	112	13	0	202
11	229	16	24	46	163	12	0	245
12	109	24	14	39	67	13	0	133
1	96	13	6	37	59	7	0	109
2	54	16	4	14	47	5	0	70
3	58	18	8	24	44	0	0	76
計	2,012 <2,279>	149 <125>	226 <205>	430 <411>	1,376 <1,646>	126 <140>	3 <2>	2,161 <2,404>

< > 内は平成14年度

「外科系」はガーゼ交換、湿布交換を含む。

「健康指導・相談」は健康診断受診証明の発行、検尿、血圧測定、身長・体重測定等を含む。

## 図書課だより

### ○ 平成16年度 学友会執行委員会

執行委員長 田中 章啓 (グループAPO薬学研究部)  
 副執行委員長 金井 泰介 (バドミントン部)  
 総務局長 調子奈津子 (弓道部)  
 厚生局長 宮原 尚子 (ソフトテニス部)  
 広報渉外局長 小原 美和 (硬式庭球部)  
 体育局長 小坂井一孝 (硬式野球部)  
 文化局長 角 静香 (フォークソング部)

### ○ 平成16年度 大薬祭実行委員会

実行委員長 谷本 幸司 (バスケットボール部)  
 副実行委員長 中井 真理 (ソフトテニス部)  
 総務部長 調子奈津子 (弓道部)  
 イベント部長 藪内 幸恵 (フィールドウォーカーズ部)  
 リサیتال部長 荒川 佑紀 (フィールドウォーカーズ部)  
 装飾部長 神浦茉奈実 (有志)  
 渉外部長 西出 詩歩 (フォークソング部)  
 渉内部長 兼松 美和 (弓道部)

## 経理課だより

### ◆ 平成17年度の学費について(学部)

平成17年度の学費が次のとおり決定しましたのでお知らせします(本年度と同額)。

(単位 円)

学費内訳	金額
授業料(年額)	1,200,000
施設・設備費(年額)	600,000
計	1,800,000

\* 2年次以降、実習費を徴収することがあります。

### ● SciFinder® Scholar™ について

昨年12月の説明会で案内したとおり、Chemical Abstracts (CA) のオンラインサービスSciFinder Scholarの最新バージョン SciFinder Scholar 2004 がリリースされ、情報科学解析センターのweb siteからダウンロードできるようになっています。

SciFinder Scholar 2004 リリース後も従来のSciFinder Scholar 2002 を継続利用することは可能ですが、一部のパソコンにインストール済の初期のバージョン (SciFinder Scholar 2001) は、本年3月末日で利用できなくなっていますので、必ずSciFinder Scholar 2004 へアップグレードを行ってください。

最新バージョンで追加された主な機能は、以下の通りです。

- ①構造検索の強化
- ②化学物質集合の限定方法の強化
- ③反応検索の強化
- ④化学物質の集合からの反応検索

追加された機能の詳細や詳しい利用方法は、研究室に配付したマニュアルまたは(社)化学情報協会のweb site (<http://www.jaici.or.jp>) を参照してください。

### ● 寄贈図書について

大阪薬科大学同窓会

「わかりやすい薬剤情報提供のための—

写真付/服薬指導 CD-ROM」

「医療薬日本医薬品集 一第27版—」 ほか11点

栗原拓史 教授

「有機薬品製造化学 第4版」

田中一彦 教授

「薬物治療学」

木村捷二郎 教授

「講座 放射線殺滅菌技術」

藤田芳一 助教授

「病態生理・疾病論 I」 ほか8点

廣谷芳彦 講師

「薬物治療学」

以上のほかにも多数のご寄贈がありました。誌面を借りて謝意を表します。

## 入試・広報課だより

### ■ 平成16年度入試結果

入 試 種 別	A O入試 (A方式)			推薦入試 (S方式)			センター試験利用入試 (C方式)			一般入試 I (F方式)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
募 集 人 員	10名			60名			30名			100名		
性 別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
志 願 者	第一次選考 25	第一次選考 51	第一次選考 76	94	289	383	478	721	1,199	412	611	1,023
受 験 者	第一次選考 25	第一次選考 51	第一次選考 76	93	288	381	477	720	1,197	406	600	1,006
合 格 者	第三次選考 4	第三次選考 6	第三次選考 10	14	78	92	86	156	242	88	175	263
入 学 者	4	6	10	10	49	59	14	16	30	34	62	96

※A O入試第一次選考は書類審査のみ

### ■ 平成17年度入試概要

入試種別	A O入試 (A方式)	推薦入試 (S方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 I (F方式)
募集人員	10名	60名	30名	100名
出願開始日	平成16年8月19日(木)	平成16年11月1日(月)	平成17年1月7日(金)	平成17年1月7日(金)
出願締切日	平成16年9月3日(金)消印有効	平成16年11月8日(月)消印有効 平成16年11月9日(火)のみ持参可	平成17年1月14日(金)消印有効	平成17年1月25日(火)消印有効 平成17年1月26日(水)のみ持参可
入学試験日	※第一次選考 平成16年9月25日(土) ※第二次選考 平成16年10月16日(土) ☆平成16年10月17日(日)	平成16年11月13日(土)	平成17年1月15日(土) 平成17年1月16日(日)	平成17年2月1日(火)
合格発表日	平成16年10月29日(金)	平成16年11月26日(金)	平成17年2月7日(月)	平成17年2月7日(月)
入学手続 締切日	平成16年11月19日(金) (一括方式)	1次 平成16年12月8日(水) 2次 平成16年12月22日(水) (2段階方式)	1次 平成17年2月14日(月) 2次 平成17年3月23日(水) (2段階方式)	1次 平成17年2月14日(月) 2次 平成17年3月23日(水) (2段階方式)
試験場	本学	本学	—	本学・大阪国際会議場・ 広島国際会議場・高松商工会議所会館
選考内容 (時間・配点)	※第一次選考(書類審査・学力確認) (書類審査) 自己アピール書 課題レポート 各種証明書 推薦書 調査書 (学力確認) [基礎学力確認(理科)]60分 100点 化学I B、生物I Bから1科目選択 [小論文]75分 100点 課題レポート理解度を確認する  第一次選考合格者発表 平成16年10月8日(金)  ※第二次選考(対面審査) [面接] 模擬講義(要約)を含む	[調査書] 150点 (理科、外国語の評定平均値各25点、 数学、全体の評定平均値 各50点)  学力確認 [理 科] 75分 150点 化学I B、生物I B から1科目選択 [外国語] 60分 100点 英語 [小論文] 60分 100点 理系の素養および薬 学や医療に対する姿 勢の確認	センター試験利用科目 [理 科] 化学I B、生物I B、 物理I Bのうち最高 得点科目を採用 100点×2 200点 [外国語] 英語 200点 [数 学] 数学I・数学A 100点 数学II・数学B 100点 [国 語] 国語I、国語II・国語III から1科目選択 100点 (近代以降の文章)の範囲に限定 本学の個別学力検査等は実施しない	[理 科] 90分 100点 化学(化学I B、化学II) 生物(生物I B、生物II) から1科目選択 [外国語] 75分 75点 英語I 英語II リーディング ライティング [数 学] 75分 75点 数学I 数学II 数学A(数と式、数列) 数学B(ベクトル、複素数と複素数平面) [調査書] 150点 (理科、外国語、数学の評定平均値各25点、 全体の評定平均値 75点)
判 定	提出書類、学力確認および 面接を総合して判定する	学力確認等および 提出書類を総合して判定する	センター試験の成績および 提出書類を総合して判定する	学力試験等および 提出書類を総合して判定する
入学検定料	第一次選考 25,000円 第二次選考 10,000円	35,000円	20,000円	35,000円
備 考	専願制 ※第一次選考合格者数により実施する ことがある	公募制		

## ■ オープンキャンパス ■

大阪薬科大学オープンキャンパス2004

日 時：平成16年 8月6日(金)、27日(金)

13：00～17：00

内 容：平成17年度入試概要説明、模擬実験、  
学内見学、個別相談 ほか

入 試 種 別	一般入試Ⅱ (G方式)			帰国生徒特別選抜入試 <K方式>			合 計			編入試 (H方式)		
	募 集 人 員	100名		若干名			300名			6名		
性 別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
志 願 者	930	1,177	2,107	1	0	1	1,940	2,849	4,789	6	16	22
受 験 者	838	1,023	1,861	1	0	1	1,840	2,682	4,522	6	16	22
合 格 者	142	158	300	0	0	0	334	573	907	1	5	6
入 学 者	57	63	120	0	0	0	119	196	315	1	5	6

入試種別	一般入試Ⅱ (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
募集人員	100名	若干名	6名
出願開始日	平成17年1月7日(金)	平成16年10月28日(木)	平成16年8月19日(木)
出願締切日	平成17年2月2日(水) 消印有効 平成17年2月3日(木) のみ持参可	平成16年11月4日(木) 消印有効	平成16年8月27日(金) 消印有効
入学試験日	平成17年2月9日(水)	平成16年11月13日(土)	平成16年9月4日(土)
合格発表日	平成17年2月17日(木)	平成16年11月26日(金)	平成16年9月8日(水)
入学手続 締切日	1次 平成17年2月23日(水) 2次 平成17年3月23日(水) (2段階方式)	1次 平成16年12月8日(水) 2次 平成16年12月22日(水) (2段階方式)	1次 平成16年9月16日(木) 2次 平成16年12月22日(水) (2段階方式)
試験場	本 学・大阪予備校	本 学	本 学
選考内容 (時間・配点)	[理 科] 90分 100点 化学(化学ⅠB、化学Ⅱ) 生物(生物ⅠB、生物Ⅱ) から1科目選択 [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A(数と式、数列) 数学B(ベクトル、複素数 と複素数平面)	学力確認 [理 科] 75分 150点 化学ⅠB、生物ⅠB から1科目選択 [外国語] 60分 100点 英語 [小論文] 60分 100点 理系の素養および薬学や 医療に対する姿勢の確認 [面 接] 学習意欲、日本語能力の 確認 薬学を修める上で必要な 分野の試問	[英 語] 45分 50点 [数 学] 45分 50点 [基礎物理化学] 60分 100点 [基礎有機化学] 60分 100点 [基礎生物学] 60分 100点 [面 接]
判 定	学力試験および 提出書類を総合して判定する	学力確認、面接および 提出書類を総合して判定する	学力試験、面接および 提出書類を総合して判定する
入学検定料	35,000円	35,000円	35,000円
備 考			原則として2年次に編入

# 教員研究業績 (2003年)

(2003. 1. 1 ~ 12.31)

## 1. 研究学術論文

著 者	題 目	掲 載 誌
土井光暢, 井尻好雄, 赤木昌夫, 上西美晴, 浦田秀仁	Crystal structure of 5'-hydroxythalidomide in vivo metabolite of thalidomide in humans	<i>Anal. Sci.</i> , <b>19</b> , x51 (2003)
浅野晶子, 土井光暢	4(R)-(N-Benzoylamino)-5(R)-methyltetrahydrofuran-2-one: an L-β-threonine analogue	<i>Acta Crystallogr.</i> , <b>E59</b> , o1486 (2003)
土井光暢, 浅野晶子, 山本大助	Hydrogen bond between water and the phenyl ring in the structure of a dipeptide H-Phe-Leu-NH <sub>2</sub> at 90 K and the structure-based energy estimations	<i>Chem. Lett.</i> , <b>32</b> , 1102 (2003)
浅野晶子, 山田剛司, 沼田 敦, 土井光暢	cyclo(-Cha-Oxz-D-Val-Thz-Ile-Oxz-D-Val-Thz-) N, N-dimethylacetamide dihydrate: a square form of cyclohexylalanine-incorporated ascidiacyclamide having the strongest cytotoxicity	<i>Acta Crystallogr.</i> , <b>C59</b> , o488 (2003)
浅野晶子, 土井光暢, 他	cis,cis-Ceratospongamide N,N-dimethylacetamide hemisolvate in the presence of twinning	<i>Acta Crystallogr.</i> , <b>C59</b> , o323 (2003)
土井光暢, 藤田さおり, 浅野晶子, 佐々木将博, 他	Crystal structures of acetyl gramicidiin S analogues	<i>Peptide Sci.</i> , <b>2002</b> , 207 (2003)
尹 康子, 友尾幸司, 大石宏文, 石田寿昌, 他	Difference between enzymatic and chemical N-methylation of protoberberine-type alkaloid, dependent on the stereoisomer of(-)-N-methyl-7,8,13,13a-tetrahydroberberinium salt	<i>Bull. Chem. Soc. Jpn</i> , <b>76</b> , 587 (2003)
尹 康子, 大石宏文, 石田寿昌, 他	Cóncerted interaction between conjugated double bond CHs and multiple OHs in polyene macrolide antibiotic chainin: weak = C-H...O interactions responsible for intrinsic molecular assembly	<i>Chem. Commun.</i> , <b>2003</b> , 1692 (2003)
尹 康子, 貴島庄一郎, 石田寿昌, 他	Aggregation feature of fluorine-substituted benzene rings and intermolecular C-H...F interaction: crystal structure analyses of mono- and trifluoro-L-phenylalanines	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , <b>51</b> , 1258 (2003)
姚 天明, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Aggregation analysis of the microtubule binding domain in tau protein by spectroscopic methods	<i>J. Biochem.</i> , <b>134</b> , 91 (2003)
友尾幸司, 沈 旭, 岡部高明, 野添良明, 福原章一, 森野重信, 石田寿昌, 他	Structural features of human initiation factor 4E, studied by X-ray crystal analyses and molecular dynamics simulations	<i>J. Mol. Biol.</i> , <b>328</b> , 365 (2003)
尹 康子, 箕浦克彦, 石田寿昌, 他	Total ssynthesis of cis,cis-ceratospongamide and its thermal isomerization: What is the real structure of the isomerization product?	<i>Peptide Sci.</i> , <b>2002</b> , 41 (2003)
姚 天明, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Aggregation analysis of microtubule binding domain in tau protein by spectroscopic method	<i>Peptide Sci.</i> , <b>2002</b> , 249 (2003)



著 者	題 目	掲 載 誌
大石宏文, 尹 康子, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Difference between Enzymatic and Chemical N-methylations of Protoberberine-Type Alkaloid, Dependent on the Stereoisomer of (-)-N-methyl-7,8,13,13a-tetrahydroberberinium Salt	<i>Bull. Chem. Soc. Jpn.</i> , <b>76</b> , 587(2003)
大石宏文, 他	Synthesis of chiral vinylic sulfoxides by Pd-catalyzed asymmetric sulfinylzincation	<i>Tetrahedron</i> , <b>59</b> , 9895(2003)
西野隆雄, 羽田理恵, 藤田芳一, 山口敬子, 角井義昌, 河原林進一郎, 他	血中カルボキシエステラーゼ活性測定による塩酸イリノテカン投与時の簡便な副作用予測とその安全使用の向上についての検討	臨床薬理, <b>34</b> , 297s(2003)
齊藤睦弘, 津田 翼, 江口量子, 佐藤卓史, 千熊正彦	Role of selenium in antioxidative effect of heparin-selenocystamine	<i>Biomed. Res. Trace Elements</i> , <b>14</b> , 329(2003)
千熊正彦, 他	キレート生成樹脂を用いる生体試料中の微量タリウムの黒鉛炉原子吸光分析	<i>Biomed. Res. Trace Elements</i> , <b>14</b> , 391(2003)
米田誠治, 池田恭子, 佐藤卓史, 千熊正彦, 他	Synthesis, structure and biological activity of azine-bridged dinuclear platinum(II) complexes - A new class of anticancer compounds	<i>Eur. J. Inorg., Chem.</i> , 4347(2003)
米田誠治, 山中泰幸, 佐藤卓史, 千熊正彦, 他	New isomeric azine-bridged dinuclear platinum(II) complexes circumvent cross-resistance to cisplatin	<i>J. Med. Chem.</i> , <b>46</b> , 1210(2003)
大桃善朗, 他	A new <sup>68</sup> Ge/ <sup>68</sup> Ga generator system using an organic polymer containing N-methylglucamine groups as adsorbent for <sup>68</sup> Ge	<i>Appl. Radiat. Isot.</i> , <b>58</b> , 9(2003)
木村捷二郎, 他	湿熱殺菌による生薬の微生物数・色調・指標成分の変化	防菌防黴, <b>31</b> , 751(2003)
箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Solvent-dependent conformation of the third repeat fragment in the microtubule-binding domain of tau protein, analyzed by <sup>1</sup> H-NMR spectroscopy and molecular modeling calculation	<i>Bull. Chem. Soc. Jpn.</i> , <b>76</b> , 1617(2003)
箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Conformational study of repeat fragments in microtubule binding domain of tau protein	<i>Peptide Sci.</i> , <b>2002</b> , 329(2003)
春沢信哉, 荒木理佐, 今津友成, 大石宏文, 栗原拓史, 他	Synthesis of (±)- <i>trans</i> - or <i>cis</i> -(5-Aminomethyl-tetrahydrofuran-2-yl)imidazole by Mitsunobu Cyclization: Synthetic Studies toward Novel Histamine H <sub>3</sub> or H <sub>4</sub> -Ligands	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , <b>51</b> , 325(2003)
春沢信哉, 荒木理佐, 寺嶋裕貴, 川村 誠, 高嶋誠一郎, 栗原拓史, 他	Efficient Synthesis of <i>trans</i> - or <i>cis</i> -4(5)-(5-Aminomethyl-tetrahydrofuran-2-yl)imidazoles via Diazafulvene Intermediates: Synthetic Approach toward Human Histamine H <sub>4</sub> -Ligands	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , <b>51</b> , 832(2003)
春沢信哉, 荒木理佐, 今津友成, 高嶋誠一郎, 栗原拓史, 他	A Selective Human H <sub>4</sub> -Receptor Agonist: (-)-2-Cyano-1-methyl-3-[(2 <i>R</i> ,5 <i>R</i> )-5-[1 <i>H</i> -imidazol-4(5)-yl]tetrahydrofuran-2-yl]methylguanidine	<i>J. Med. Chem.</i> , <b>46</b> , 3162(2003)
春沢信哉, 川村 誠, 小藪修持, 細川智子, 荒木理佐, 栗原拓史, 他	Formation of Two 4-Imidazolymethylphosphonium Salts and their Synthetic Studies Toward Histamine H <sub>3</sub> -Ligands	<i>Synthesis</i> , 2844(2003)

著 者	題 目	掲 載 誌
荒木理佐	ヒトのヒスタミンH <sub>4</sub> 受容体に特異的に作用する化合物への合成化学的アプローチ	医薬資源研究振興会助成研究報告集(2002年度), 37(2003)
春沢信哉, 栗原拓史, 他	ヒスタミンH <sub>3</sub> 受容体拮抗薬の抗てんかん薬への応用	てんかん治療研究振興財団研究年報, 15, 125(2003)
春沢信哉, 荒木理佐, 栗原拓史	総合論文: イミダゾールC-ヌクレオシド誘導体の合成研究とヒスタミンH <sub>3</sub> およびH <sub>4</sub> リガンドへの応用	有機合成化学協会誌, 61, 682(2003)
浦田秀仁, 清水はな, 赤木昌夫, 他	Thermodynamic study of hybridization properties of heterochiral nucleic acids	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 309, 79(2003)
浦田秀仁, 上田義明, 赤木昌夫	Effects of breaking homochirality on DNA structure and stability: introduction of an L-nucleotide into DNA induces some decrease of helical stability but not critical helical distortion	<i>Viva Origino</i> , 31, 233(2003)
原田勇一, 他	Unmutated immunoglobulin M can protect mice from death by influenza virus infection	<i>J. Exp. Med.</i> , 197, 1779(2003)
三野芳紀, 間 俊男, 町田裕治	Large difference in amino acid sequences among ferredoxins from several species of genus <i>Solanum</i>	<i>Phytochemistry</i> 62, 657(2003)
木戸 正, 馬場きみ江, 他	Effects of hydroxystilbene derivatives on tyrosinase activity	<i>Biochem. Biophys. Res. Commun.</i> , 307, 861(2003)
王 年鶴, 谷口雅彦, 辻 大介, 土井光暢, 大石宏文, 馬場きみ江, 他	Four guaianolides from <i>Sinodielsia yunnanensis</i>	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 51, 68(2003)
木戸 正, 谷口雅彦, 馬場きみ江	Diterpenoids from Amazonian crude drug of Fabaceae	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 51, 207(2003)
王 年鶴, 谷口雅彦, 辻 大介, 馬場きみ江	Sinodielides E-H, four new guaianolides, from the root of <i>Sinodielsia yunnanensis</i>	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 51, 499(2003)
中島誠二, 馬場きみ江, 他	Effects of dietary <i>Angelica keiskei</i> on lipid metabolism in stroke-prone spontaneously hypertensive rats	<i>Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.</i> , 30, 284(2003)
馬場きみ江, 他	Antitumor and antimetastatic activities of <i>Angelica keiskei</i> roots, part 1: isolation of an active substance, xanthoangelol	<i>Int. J. Cancer</i> , 106, 429(2003)
塚本大介, 芝野真喜雄, 草野源次郎	Two new pyrrolidine alkaloids, broussonetines Y and Z from <i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb. and activity of glycosidases inhibition by N-alkylation of broussonetines	<i>Nat. Med.</i> , 57, 68(2003)
草野昭子, 芝野真喜雄, 塚本大介, 草野源次郎, 他	Studies on the antioxidant active constituents of the dried powder from <i>Bidens pilosa</i> L. var. <i>radiata</i> Sch.	<i>Nat. Med.</i> , 57, 100(2003)
谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	医薬品と生薬・サプリメントの相互作用	薬学雑誌, 123(Suppl. 3), 10(2003)
田中麗子, 南 俊史, 石川陽平, 松永春洋, 他	Cancer chemopreventive activity of serratane-type triterpenoids on two-stage mouse skin carcinogenesis	<i>Cancer Lett.</i> , 196, 121(2003)

著 者	題 目	掲 載 誌
岩本 学, 南 俊史, 大津博則, 田中麗子, 他	Potential antitumor promoting diterpenoids from the stem bark of <i>Thuja standishii</i>	<i>Planta Medica</i> , <b>69</b> , 69(2003)
田中麗子, 石川陽平, 南 俊史, 箕浦克彦, 松永春洋, 他	Two new anti-tumor promoting serratane-type triterpenoids from the stem bark of <i>Picea jezoensis</i> var. <i>jezoensis</i>	<i>Planta Medica</i> , <b>69</b> , 1041(2003)
藤井 忍, 池田 潔, 他	His151 and His296 are the acid-base catalytic residues of <i>Bacillus cereus</i> sphingomyelinase in sphingomyelin hydrolysis	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , <b>26</b> , 920(2003)
奥村幸司, 井上晴嗣, 池田 潔, 林 恭三	Identification and characterization of a serum protein homologous to $\alpha$ -type phospholipase A <sub>2</sub> inhibitor (PLI $\alpha$ ) from a nonvenomous snake, <i>Elaphe quadrivirgata</i>	<i>IUBMB Life</i> , <b>55</b> , 539(2003)
井上晴嗣, 池田 潔, 林 恭三, 他	Characterization of nerve growth factors (NGFs) from snake venoms by use of a novel, quantitative bioassay utilizing pheochromocytoma (PC12) cells overexpressing human trkA receptors	<i>Toxicon</i> , <b>42</b> , 481(2003)
天野富美夫, 他	Endotoxin-tolerance to the cytotoxicity toward a macrophage-like cell line, J774.1, induced by lipopolysaccharide and cycloheximide: Role of p38 MAPK in induction of the cytotoxicity	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , <b>26</b> , 1249(2003)
天野富美夫, 他	Effects of anaerobic preculture on aerobic stress responses of <i>Campylobacter jejuni</i>	<i>Biosci. Microflora</i> , <b>22</b> , 21(2003)
佐久間 覚, 藤本陽子, 加藤祐輔, 藤田 直	The effects of nitric oxide and peroxynitrite on the formation of prostaglandin and arachidonoyl-CoA formed from arachidonic acid in rabbit kidney medulla microsomes	<i>Prostaglandins Leukot. Essent. Fatty Acids</i> , <b>68</b> , 343(2003)
藤本陽子, 佐久間 覚, 西脇悠美子, 池田麻衣, 藤田 直	Effects of endocrine disruptors on arachidonic acid metabolism in rabbit platelets	<i>Toxicol. Appl. Pharmacol.</i> , <b>189</b> , 96(2003)
湊 誠一郎, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Application of polyethyleneglycol (PEG)-modified liposomes for oral vaccine : effect of lipid dose on systemic and mucosal immunity	<i>J. Control. Rel.</i> , <b>89</b> , 189(2003)
櫛引俊宏, 友重龍治, 福中泰紀, 掛見正郎, 他	In vivo release and gene expression of plasmid DNA by hydrogels of gelatin with different cationization extents	<i>J. Control. Rel.</i> , <b>90</b> , 207(2003)
宮崎 誠, 中出 進, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Estimation of bioavailability of salmon calcitonin from the hypocalcemic effect in rats (I): Pharmacokinetic-pharmacodynamic modeling based on the endogenous Ca regulation system	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> , <b>18</b> , 350(2003)
宮崎 誠, 中出 進, 岩永一範, 掛見正郎, 他	Estimation of bioavailability of salmon calcitonin from the hypocalcemic effect in rats (II): Effect of protease inhibitor on the pharmacokinetic - pharmacodynamic relationship after intranasal administration	<i>Drug Metab. Pharmacokinet.</i> , <b>18</b> , 358(2003)
岩永一範, 蔽田俊之, 掛見正郎, 他	Usefulness of microspheres composed of gelatin with various cross-linking density	<i>J. Microencapsulation</i> , <b>20</b> , 767(2003)

著 者	題 目	掲 載 誌
掛見正郎, 宮崎 誠, 他	Contribution of sympathetic nervous system activity during administration of carvedilol in rats with dilated cardiomyopathy	<i>J. Cardiovasc. Pharmacol.</i> , <b>42</b> (suppl.1), S93 (2003)
上西幸治, 田中一彦, 他	Interaction between digoxin and calcium channel blockers in patients undergoing hemodialysis	<i>Jpn J. Clin. Pharmacol. Ther.</i> , <b>34</b> , 323 (2003)
田中一彦, 他	The relationship between the surface area of high flux dialyzer membranes and measured vancomycin elimination	<i>Jpn J Ther Drug Monit</i> , <b>20</b> , 323 (2003)
浦田元樹, 西堀崇子, 田中一彦, 他	二次性副甲状腺機能亢進症治療薬マキシカルシトールの臨床的評価	医療薬学, <b>29</b> , 725 (2003)
西野隆雄, 他	Effects of herbal drugs prescribed in wood creosote pills on the dissolution profile of guaiacol	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , <b>26</b> , 194 (2003)
中野大介, 伊藤千恵, 石井史恵, 川西秀明, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Effects of sesamin on aortic oxidative stress and endothelial dysfunction in deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertensive rats	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , <b>26</b> , 1701 (2003)
大喜多 守, 高岡昌徳, 杉井真人, 塩田恭子, 野尻瑠美, 松村靖夫	The role of nuclear factor- $\kappa$ B in the regulation of endothelin-1 production by nitric oxide	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , <b>472</b> , 159 (2003)
藤井俊秀, 高岡昌徳, 村岡智子, 倉田隼人, 松村靖夫, 他	Preventive effect of L-carnosine on ischaemia/reperfusion-induced acute renal failure in rats	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , <b>474</b> , 261 (2003)
尾形政哉, 田澤尚子, 西川満則, 山下潤二, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	A novel and selective $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange inhibitor, SEA0400, improves ischemia/reperfusion-induced renal injury	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , <b>478</b> , 187 (2003)
藤井俊秀, 倉田隼人, 高岡昌徳, 村岡智子, 松村靖夫, 他	The role of renal sympathetic nervous system in the pathogenesis of ischemic acute renal failure	<i>Eur. J. Pharmacol.</i> , <b>481</b> , 241 (2003)
松村靖夫, 高岡昌徳, 他	Attenuation of renal fibrosis by proteasome inhibition in rat obstructive nephropathy: Possible role of nuclear factor- $\kappa$ B	<i>Int. J. Mol. Med.</i> , <b>12</b> , 587 (2003)
山下潤二, 尾形政哉, 伊藤 誠, 山嵜 弘, 志日田由華, 高岡昌徳, 松村靖夫	Role of nitric oxide in the renal protective effects of ischemic preconditioning	<i>J. Cardiovasc. Pharmacol.</i> , <b>42</b> , 419 (2003)
山下潤二, 尾形政哉, 高岡昌徳, 田澤尚子, 西川満則, 松村靖夫, 他	Attenuation of ischemia/reperfusion-induced renal injury in mice deficient in $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger	<i>J. Pharmacol. Exp. Ther.</i> , <b>304</b> , 284 (2003)
幸田祐佳, 平松 純, 玄番宗一	Involvement of MEK/ERK pathway in cephaloridine-induced injury in rat renal cortical slices	<i>Toxicol. Lett.</i> , <b>143</b> , 185 (2003)
辻坊 裕, 久保田高弘, 山本 貢, 宮本勝城, 稲森善彦	Characterization of chitinase genes from an alkaliphilic actinomycete, <i>Nocardioopsis prasina</i> OPC-131	<i>Appl. Environ. Microbiol.</i> , <b>69</b> , 894 (2003)
辻坊 裕, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	A thermostable laccase from <i>Streptomyces lavendulae</i> REN-7: purification, characterization, nucleotide sequence, and expression	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , <b>67</b> , 2167 (2003)

著 者	題 目	掲 載 誌
松村瑛子, 辻坊 裕, 稲森善彦, 他	Biological activity of tropolone	<i>Biol. Pharm. Bull.</i> , <b>26</b> , 1487(2003)
辻坊 裕, 他	Fusion of family 2b carbohydrate-binding module increases the catalytic activity of a xylanase from <i>Thermotoga maritima</i> to soluble xylan	<i>FEBS Lett.</i> , <b>549</b> , 147(2003)
辻坊 裕, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	<i>Pseudoalteromonas sagamiensis</i> sp. nov., a marine bacterium that produces protease inhibitors	<i>Int. J. Syst. Evol. Microbiol.</i> , <b>53</b> , 1807(2003)
折越英介, 馬場 直, 中山恵成, 賀集博史, 宮本勝城, 安田正秀, 稲森善彦, 辻坊 裕	Molecular analysis of the gene encoding a novel cold-adapted chitinase (ChiB) from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	<i>J. Bacteriol.</i> , <b>185</b> , 1153(2003)
坂口 実, 古関 誠, 若松正徳, 松村瑛子	Effects of $\beta$ -casomorphin-5 on passive avoidance response in mice	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , <b>67</b> , 2501(2003)
坂口 実, 村山幸一, 松村瑛子, 他	Neurite outgrowth-stimulating activities of $\beta$ -casomorphins in Neuro-2a mouse neuroblastoma cells	<i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> , <b>67</b> , 2541(2003)
片山 哲, 坂口 実, 松村瑛子, 他	A novel chymase inhibitor, 4-[1-[[bis-(4-methyl-phenyl)-methyl]-carbamoyl]-3-(2-ethoxy-benzyl)-4-oxo-azetidino-2-yloxy]-benzoic acid (BCEAB), suppressed cardiac fibrosis in cardiomyopathic hamsters	<i>J. Pharmacol. Exp. Ther.</i> , <b>305</b> , 17(2003)
楠瀬健昭	詩人の祈り	<i>NONDUM</i> , <b>10</b> , 48(2003)
楠瀬健昭	Skylark, Woodlark, and Windhover	ばいであ, <b>27</b> , 55(2003)
[追補 2001]		
王 年鶴, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Studies on original plant of traditional Chinese drug "Bai Zhi" (Radix Angelicae dahuricae) and its closely related wild plants III. Comparison of coumarins of "Bai Zhi" with those of closely related wild plants	<i>China J. Chinese Materia Medica</i> , <b>26</b> , 669(2001)
王 年鶴, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	Studies on original plant of traditional Chinese drug "Bai Zhi" (Radix Angelicae dahuricae) and its closely related wild plants IV. Discussion on original plant and cultivation history of traditional Chinese drug "Bai Zhi" and evolution of its closely related wild plants	<i>China J. Chinese Materia Medica</i> , <b>26</b> , 733(2001)
[追補 2002]		
大石宏文, 他	The crystal structure of N'-[2-(2-amino-ethylamino)-ethyl]-ethane-1,2-diamine (polyamines) binding to the minor groove of d(CGCGCG) <sub>2</sub> , hexamer at room temperature	<i>FEBS Lett.</i> , <b>523</b> , 29(2002)
大石宏文, 石田寿昌, 他	The X-ray crystallographic study of long chain left handed Z-DNA and polyamine complex and structural chemistry study of effecton by polyamine for the Z-DNA	<i>Nucl. Acids Res. (Suppl)</i> , <b>2</b> , 53(2002)

## 2. 総説・解説

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
木村捷二郎	乾燥粉末“医薬・食材”の照射殺菌による効果と実用化への問題点	月刊フードケミカル, 6, 26(2003)
山沖留美	生薬の含有放射能	防菌防黴, 31, 373(2003)
春沢信哉	ヒスタミンレセプター	有機合成協会誌, 61, 722(2003)
馬場きみ江, 谷口雅彦	アシタバの健康効果と利用法	Food Style 21, 7, 68(2003)
草野源次郎, 芝野真喜雄, 他	数種のカンゾウ属植物に関する薬用植物学的研究	Yakugaku Zasshi, 123,619(2003)
宮崎 誠	“濃度”で推定? 抗がん剤の血液障害	ファルマシア, 39, 705(2003)
川井仁之, 田中一彦, 他	ピルジカイニドの体内動態の特徴と初期投与モノグラムの検討	Pharma Medica, 21, 165(2003)
高岡昌徳, 大喜多 守, 松村靖夫	Pathophysiological role of proteasome-dependent proteolytic pathway in endothelin-1-related cardiovascular diseases	Cull. Vascular Pharmacol., 1, 19(2003)
高岡昌徳, 松村靖夫	Pathophysiological role of endothelin in ischemic acute renal failure	Recent Res. Devel. Life Sci., 1, 203(2003)
中野大介, 松村靖夫	降圧薬の現況	循環制御, 24, 232(2003)
高岡昌徳, 松村靖夫	急性腎不全の発症・進展機構	腎と透析, 54, 744(2003)
幸田祐佳, 玄番宗一	薬物とフリーラジカル	腎と透析, 54, 739(2003)
加藤義春	(巻頭言) 2003年度大会を終えて	大学教育学会誌, 25(2003)

## 3. 著書

著者	題目	出版社
齊藤陸弘, 津田 翼, 高津智子, 江口量子, 佐藤卓史, 千熊正彦	Cytotoxic and antioxidant activities of heparin-seleno-cystamine conjugate and selenite	Bio-Trace Elements 2002 93(2003)
馬場きみ江, 他	生薬学必携カード【第2版】	廣川書店, (2003)
馬場きみ江, 他	医療における漢方・生薬学	廣川書店, (2003)
池田 潔, 他編集	廣川タンパク質化学 第1巻	廣川書店, (2003)
井上晴嗣	廣川タンパク質化学 第1巻	廣川書店, (2003)
藤井 忍	廣川タンパク質化学 第4巻	廣川書店, (2003)

著 者	題 目	出 版 社
掛見正郎, 中元安雄, 田中一彦, 西野隆雄	近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会編「薬学 生のための病院・薬局実習の手引き 2004年版」	じほう, (2003)
掛見正郎, 他	辻 彰編「薬剤師のための常用医薬品情報集 2004年版」	廣川書店, (2003)
田中一彦, 他	薬物治療学, 第2版	廣川書店, (2003)
玄番宗一, 他	トキシコロジー用語事典	じほう, (2003)

#### 4. 特許

出 願 者	題 目	特 許 番 号
栗原拓史, 春沢信哉, 他	Improvement in the production of imidazole deriva- tives and novel intermediates of the derivatives	PCT Patent WO 030/70722 (2003)
稲森善彦, 松村瑛子, 他	白血病細胞増殖阻害剤	出願番号: 特願2003-26166 (2003)

#### 5. その他

著 者	題 目	書名または掲載誌
藤田芳一	ICP-AESとICP-MS	第50回機器による分析化学講習 会テキスト 37(2003)
木村捷二郎	講座 放射線殺滅菌技術	防菌防黴 別刷集(2003)
馬場きみ江	「アシタバ」がセルライトを退治する!	ヴィ セラピ, 6, 90(2003)
馬場きみ江	アシタバに含まれるカルコンは、血液やリンパの流 れをよくしてセルライトやむくみを解消。血栓を抑 えて脳梗塞も予防	はつらつ元氣, 8, 60(2003)
馬場きみ江	アシタバのカルコンは血流をよくして代謝を促進、 むくみやセルライトを解消。また胃潰瘍やガンの予 防にも有効である	はつらつ元氣, 9, 108(2003)
岩永一範, 富永 諭, 宮崎 誠, 掛見正郎, 他	Emulsion製剤を用いた薬物の消化管及び肝代謝回 避の可能性に関する研究	<i>Progress in Drug Delivery System, XII</i> , 55(2003)
松村靖夫	ゴマは血液をサラサラに変えて高血圧、心臓病、ガ ンまで防ぐと実験で確認	壮快, 34, (2003)



発行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (072) 690-1019(入試・広報課)

FAX (072) 690-1018(            ”            )

URL <http://www.oups.ac.jp/>